

第28回神奈川県美術展



第28回神奈川県美術展

●1期展：

日本画、洋画、版画 彫刻・立体造形

平成4年10月7日(水)—10月18日(日)

●2期展：

工芸、書、写真

平成4年10月21日(水)—11月1日(日)

会場

神奈川県立県民ホール・ギャラリー

主催

神奈川県美術展委員会／神奈川県

平塚市巡回展

平成4年11月5日(木)—11月10日(火) 11月9日(月)休館
平塚市美術館

小田原市巡回展

平成4年11月12日(木)—11月17日(火) 11月16日(月)休館
小田原市中央公民館

厚木市巡回展

平成4年11月20日(金)—11月25日(水)
厚木市市民ギャラリー



● 1期展：日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形



●大賞／彫刻・立体造形 MAGNETIC FIELD 92-2……たべ けんぞう



●準大賞／日本画 THE MESSAGE……樋口 薫



●特選／日本画 夢の虚構……加藤 敏夫



●特選／洋画 遠い街の記憶……早矢仕 素子



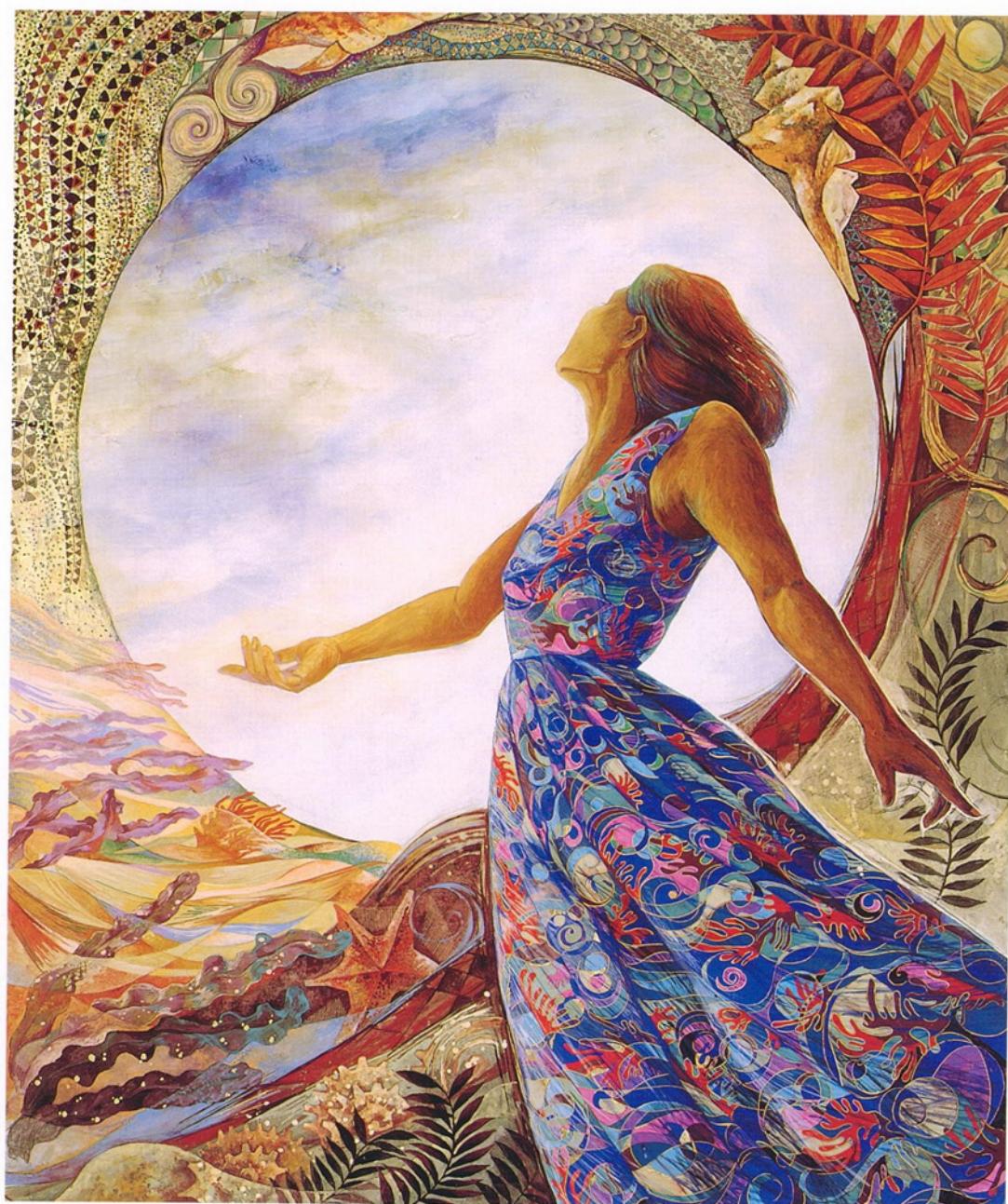
●特選／版画“Quelque chose enchanté”……谷澤 真希



●特選／彫刻・立体造形 POOL(水の形)……小田切 秀樹



●近代美術館賞／洋画 野の意味……和田 彰



●特別奨励賞／日本画 深海より……浅葉 雅子



●特別奨励賞／日本画 始発駅……小谷野 直己



●特別奨励賞／洋画 STILL LIFE small dusty beans……中村 智恵美



●特別奨励賞／版画 Mの囁き……馬渡 韶子



●美術獎学会賞／版画 魚上の密会……安原 典子



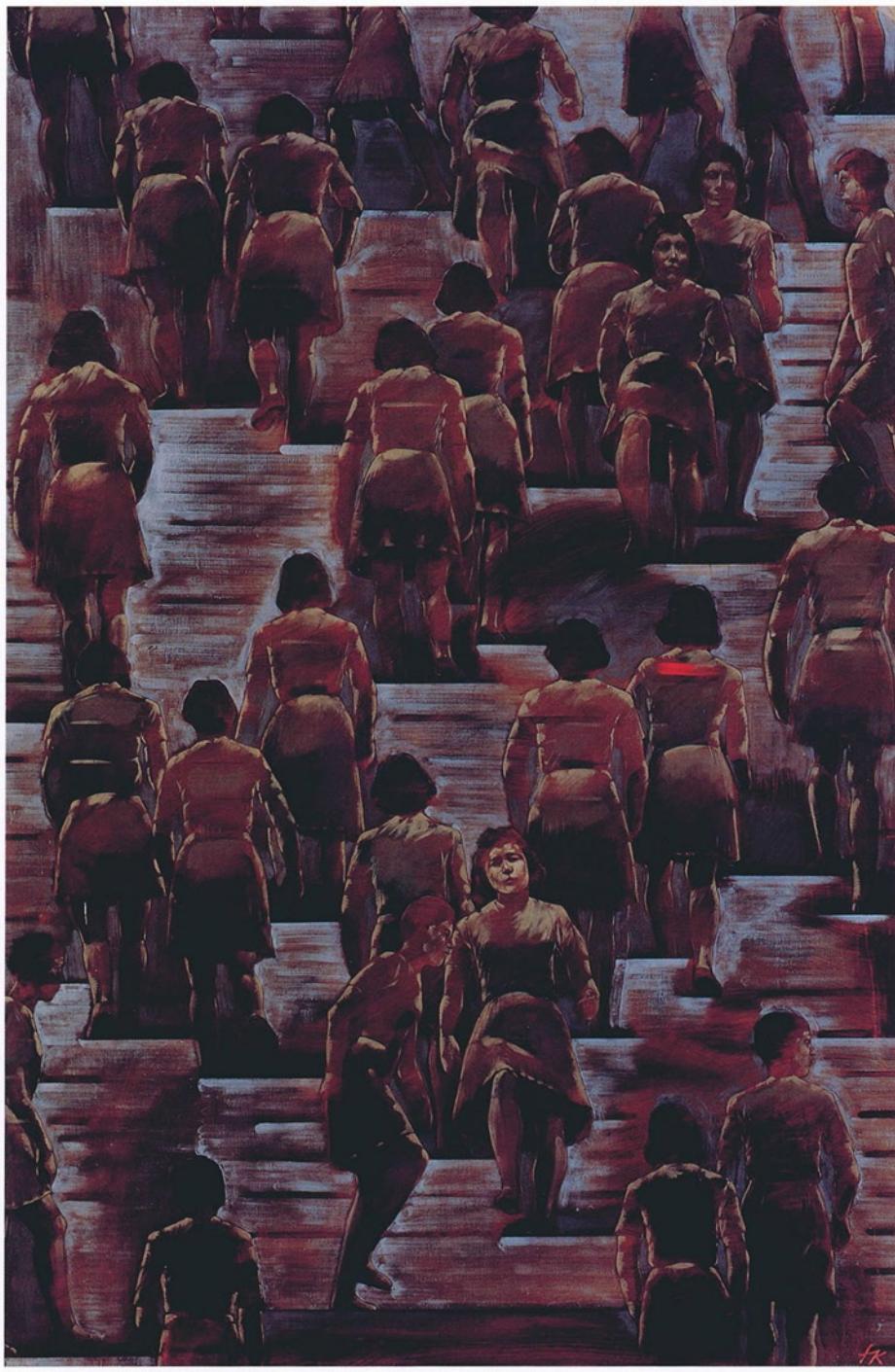
●美術奨学会賞／版画 落ちる3……宮野 美和



●美術奨学会賞／彫刻・立体造形 私をとりなすものの背景……三輪 浩隆



●美術獎学会賞／彫刻・立体造形 Particle's Field……寺崎 裕史



●県議会長賞／洋画 記憶一階段……古川 勝幸



受賞作品目録 [日本画、洋画、版画、彫刻・立体造形 部門]

大 賞	たべけんぞう	彫刻立体造形『MAGNETIC FIELD 92-2』
準 大 賞	樋 口 薫	日本画『THE MESSAGE』
特 選	加 藤 敏 夫	日本画『夢の虚構』
特 選	早矢仕素子	洋画『遠い街の記憶』
特 選	谷 澤 真 希	版画『“Quelque chose enchanté”』
特 選	小田切秀樹	彫刻立体造形『POOL(水の形)』
近代美術館賞	和 田 彰	洋画『野の意味』
特別奨励賞	浅 葉 雅 子	日本画『深海より』
特別奨励賞	小谷野直己	日本画『始発駅』
特別奨励賞	中村智恵美	洋画『STILL LIFE small dusty beans』
特別奨励賞	馬 渡 韶 子	版画『Mの囁き』
美術奨学会賞	安 原 典 子	版画『魚上での密会』
美術奨学会賞	宮 野 美 和	版画『落ちる3』
美術奨学会賞	三 輪 浩 隆	彫刻立体造形『私をとりなすものの背景』
美術奨学会賞	寺 崎 裕 史	彫刻立体造形『Particle's Field』
県議会議長賞	古 川 勝 幸	洋画『記憶一階段』

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された財団法人神奈川県美術奨学会から、神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学会賞です。



入選作品目録

[日本画]

林 美 枝 子『風歴』
荒井三重子『白日』
松 原 秀 伸『松原』
三 村 伸 絵『野想VI・廻』
松 崎 達 夫『迷夢』
鈴 木 國 男『ある日・TAMA ZOO DRIVE(AM9:41)』
佐々木慧子『内なる眼』
鶴 田 耕 治『時の絡縄』
匂 坂 均『追憶』
畔 上 千 穂『水の形象』
北 澤 明 子『翻流』
山 崎 洋 子『葉鷄頭』
斉 藤 弥『北へ』
加藤正二郎『新月の夜』
石 崎 昭 亜『苛酷な伝承』

[洋画]

吉 田 誠 子『銀河系宇宙の祝日』
山 田 晴 恵『THE GAME I』
百瀬 裕 明『Reverse side '92 VOL2』
金 子 徹『夢の中の記憶』
中 村 陽 子『響きII』
肥 沼 守『衆-7』
松 井 廣 志『郊』
久 野 弘 司『家族の肖像』
藤 村 弘 子『ウインドウの中 RUIN』
金 谷 ゆみえ『午後の風』
加 藤 史 子『Someday- I』
青 木 登 史 男『間一直』
横 地 光『Increase』
八 木 哲 平『小浮揚』
堂 免 和 美『STRATUM 16』
西 山 晴 恵『SKIN(White) NO.6』
仲 圭 子『麦酒讃歌II』
田 中 木 芽『記憶の皮膜(92-1)』
三 橋 敦 子『ウェーブ』
谷 川 悅 子『幻の楽園III』
劉 明 均『夢 92-II』
藤 原 厚 子『想(III)』
松 本 京 子『風の刻2』
井 口 貴 夫『無限透過』
西川美智子『カードをする人』
古 藤 典 子『seiches(静振)92-2』
吉 田 正 則『春華なる大陸』
岸上嘉世子『埠頭の朝』
雙 田 実『幻の草原(2)』
藤 沢 徳 子『TOKI... II』
田 鳴 佳 子『踊る柿の木』
葉 月 弘 生『きのうの場所』

田家ハルミ.....『風の行方』
三橋節子.....『アトリエの風景II』
白井洋子.....『私の部屋の一人言(II)』
石井誠.....『Kai-Koh・II』
渡辺 豊.....『凧』
熊田至.....『揺れる・E』
浜野さよ子.....『滴々(B)』
松沢五男.....『ONI-YANMAⒶ』
長岡一豊.....『夢想』
小倉信一.....『夜の間に一電話一』
公文淳子.....『けものみちI』
佐藤直滋.....『innerdirected '92 09-01』
鈴木星城.....『2人の世界(A)』
犬飼正.....『あお一風紋』
宮崎末子.....『コスモス(ワープII)』
田邊明子.....『Untitled』
鶴原靖子.....『時間(の中の小宇宙)I』
安田文夫.....『ちがさきの夏』
生駒幸子.....『一隅II』
小川知紀.....『余白の為の装置』
横山将二.....『作品1992 NO23』
国方房子.....『記憶の断片(II)』
大庭京子.....『永遠の森「春」』
遠藤環.....『ベネチアI(謝肉祭)』
桜井陽子.....『ONE SPACE I』
坪井賀子.....『Tomorrow I』
臼井恵之輔.....『FV.92-10』
片桐聖子.....『in her bathroom I』
伊藤明子.....『景色2』
横山博志.....『よみの狩人』
三浦真理子.....『くらげ流れる』

河村順明.....『海は語らず』
西国学.....『Junko-Junko-Junko-へ』
平田清隆.....『作品(I)』
田中善隆.....『Z氏の領分』
白崎裕義.....『恋人たち(2)』
中山智介.....『かお』
佐藤裕美.....『矩形の譜II』
竹村皓子.....『行く・街I』
片岡世喜.....『日曜日の校庭』

[版画]

- 篠島喜久子 『WHITEISPLAYING』
鈴木良男 『ピーナスの消える時』
高桑一雄 『ヨコハマシリーズ ドームのある銀行』
中込洋子 『原光 I -C』
市川敏夫 『阿形 08-0492』
李誠九 『From Nature(I)』
清水美三子 『緑蔭風』
高橋宏光 『Shichi-へ』
西川洋一郎 『古の記憶'9209-Ancient memory-』
小幡悦子 『Nudo II』
加藤晶 『flow』
中山岳美 『商店街 NO.I』
松野登美子 『回想(スペインの旅)』
服部由佳子 『manger』
ウチダヨシエ 『心象風景 I』
竹村芳樹 『そうですか』
田辺いづみ 『道』
小山榮 『夜響II』
近藤憲昭 『Phase(位相)』
鈴木道子 『地下の河(stream D)』
中島褐巳 『駐輪場』
時田也寸子 『Slow March-9203』

[彫刻・立体造形]

- 津田竜之介 『“the illusion I ~III”』
小宮彌栄子 『巨人界<I>-A』
小宮彌栄子 『巨人界<I>-B』
結城勉 『P.D-16. landscape—I—』
郡田政之 『NEW ORDER』
久松共子 『時の迷宮』
田中忠夫 『県民ギャラリーの空間—Ⓐ』
倉橋元治 『アジアによる農耕民族のアート or THE SHAMAN』
後藤美樹 『オカラコエテ…』
渡辺五大 『その地点に至ると』
安藤千佳子 『時空』
劉明均 『夢 92』
阿部佳明 『MEDITATION6』
永島洋子 『水と大地の記憶』
広田美穂 『corazón』
塩田和孝 『実在性』
菱刈俊作 『水の森へ』
竹村芳樹 『立』
米原昌郎 『東の時』
熊本直樹 『地角』
水島茂 『白い雲』

日本画

●搬入点数53点(44人) ●入選点数19点(19人)

昨年27回展の応募点数は63点、内入選25点、本年は28回展応募点数53点、10点減少、入選点数は19点、入選率は3人に1人、質的にはやや日本画有利かともかんじた。それにしてもここ十何年来、大賞がないのはどうしたことだろう?

準大賞は4年ぶりで、若い人が決まった。賞はそれぞれで4名。準大賞「THE MESSAGE」樋口薰 29才、は、大胆な絵。技術はまるでザツなところが気になるが、何か訴える力が内に在るようである。

画面は人体をバラバラと自由に切断して、心臓なども落書のように壁に描かれ、それが何となく心の楽しさを暗示する。画面も横でも縦でも佳く見える。信仰という愛の問題まで描けたらということではあった。これは、日本画の審査場ではやや遅く賞の候補となつたものだったが、大賞選考場では他科の票が多く幸運にも入ったわけで、そこが神奈川県展のユニークなよさで、又、面白さかと感じた。

さて、特選の加藤敏夫「夢の虚構」は力作で、以前、数年前に賞を何度も重ねた人で、それから落ちたり、入ったりの様子だったが盛り返したかんじで努力が買われた。氏の60才の年令、一途なこころは大切。他の二名は特別奨励賞で、浅葉雅子、「海底から」は、空がきれいでのびのびと若々しい。明るく一成功だったようであるが、構図に今一工夫をとも思えた。小谷野直巳、「始発駅」は情感のある画面、古めかしい描き方だが、何か長く見ていると、しんみりとした旅情のようなやさしさと落着きを感じさせるところがよかったと思う。やはり今一工夫絵具の発色の勉強がのぞまれる。入選の中では北沢明子「翻流」とか佐々木慧子「内なる眼」今後に期待したいと思う。

いつも同じような絵で可もなく、不可もなくの状態で何となく残っていて、最後に入選の中に入っていた作品が多かった。やはり落ちても、入っても何かしら心に残る作の方が、より作家の将来にはよいのではと思う。現在の入落はあまり目的とせずに、どんどん思い切った実験作品を元気にやってほしいと念ずる。今よりも先、先に行って、きっとよくなる絵、そうゆうものが一等大切な常々の画家の「心」ではないかと思うのである。希望をかんじさせる事、期待を、そういうことが大切なことなのではなかろうか。

近藤 弘明

洋画

●搬入点数377点(220人) ●入選点数76点(76人)

今度、県展の審査を頼まれ学校を卒業した頃のことを想い出した。その頃僕や僕の友人達は毎月のように有るあちこちの公募展に出品をしていた。搬入時には色々なものが出品されてきて、そこには僕が考えもしなかったようなものの(作品)に出くわすことがあった。そしてこの新鮮な感じが僕はとても好きだった。またその他の作品を見て刺激をうけ、自分の作品をもっと強いものにと考えたりしたものでした。搬入された審査前の作品群には、そういう驚きを含んだ作品が必ず一・二点は有ったものです。だから今度もあの頃の驚きがあるかも知れないと思い、ある種の期待を持ち審査会場に行きました。

審査が進むうち、僕にはあの昔の搬入時の作品群から受けた感じとは違い、また全然別種のものを感じました。作品のテクニック、完成度これらは申し分の無いものが多く有り、また表現に対して一生懸命に見えるものも多く有りました。しかし審査中の僕には、何か少し物足りないなという意識が有りました。昔僕が見た審査前の作品群の中の、あのギラギラしたような強烈な個性の表出「これは一体なんだ」というようなものは、残念ながら今回の作品群の中には(少なくとも僕には)見受けられませんでした。確かに絵としての完成度、表現の方法論、又描くというテクニックは、僕や僕の昔の友人達より、遥かに高いと思えました。が、しかしその「旨さ」故に個性が隠蔽されてしまったのか分かり兼ねますが、作品群は奇麗に、おとなしくまとまり出来上がってきました。僕が最初に期待していた驚きは審査が終了するまでとうとう有りませんでした。数多くの応募されてきた作品群の中で光る為には、いわゆる一般的な常識の枠を越えた表現が為されなければならないだろう。またそのような表現を行うには「旨くて、奇麗に出来ていて、おとなしく、何処かに類型のあるような表現」では無しに、「拙劣でも汚くも良いが強烈な個性の表現」を目指すことなしには、数多くの作品の中で光を放つ作品とは成り得ないのでないだろうか。

表現することの難しさ、個性的で在ることの大変さを審査を進めて行くうちに僕自身改めて感じました。

吉田 克朗

版画

●搬入点数98点(46人) ●入選点数26点(26人)

神奈川は、「国際版画アンデパンダン展」も今年で17回目を迎え、昨年より「世界の版画・イン神奈川」も始まり、東ヨーロッパを中心に他ではなかなか目にすることが出来ない作品を見ることが出来ます。作家にも鑑賞者にも幸福な状況にあると言えます。県美術展もそれを反映してか、毎年レベルの高い版画作品が応募されます。

今年はここ数年続いているテクニックに重点を置いた作品が減り、自由な発想の作品が増えたせいかとても楽しく審査することが出来ました。応募点数も応募人数も昨年とほぼ同じでしたが、入選率が昨年は30.3%、今年は26.5%と昨年に比べて厳しい結果となりました。3点の応募者が16名、2点が20名、1点が10名でした。

一回目の審査は初めに3点応募者の作品を検討しました。まず各審査員が一番良いと思われる作品を選び、話し合いをして意見が一致した場合は即入選になりました。意見が分かれたり、一人につき2点入れたい場合は更に話し合い、保留という形で残し後で審査をし直しました。次に2点応募者の審査をしました。これも3点応募者の審査方法と同じです。同様に1点応募者の審査も行いました。

二回目の審査は2点入選と保留になっていた作品を検討しました。ここで2点入選作品は消え保留作品の入落も決りました。また軽微な額装の作品については、展示した場合に問題があるのではないかという意見が出されました。作品を中心にして考えその作品に合っていれば良いということになりました。最終的には5人の審査員の挙手(多数決)でほとんど決めました。時間をかけた大作、しかも力作は複数応募者に多く見られましたが、結果的には審査員の感性で選んでいるので、小さい作品の方が入ったり、作品の大小には関係ありませんでした。

三回目の審査では入選点数26点から賞候補を選びました。審査員がそれぞれ4票ずつ票を持ち推したい作品に置いていきました。

その結果8点残りました。更にその中から再度投票し直し、次の女性4人が賞候補となりました。

馬渡響子のリト作品はここ数年心境著しいものがあり、特に今回の「Mの囁き」は大画面を力強くまとめ上げこのシリーズならではの円熟味を感じました。大正時代の空想冒険小説的なイメージもありどこか懐かしさを感じさせます。安原典子は県美術展の常連で、いつもは内容とマチエールの選び方にどこかぎこちなさを感じるところがあったのですが、今回の「魚上での密会」はそう言ったところがエッティング特有の味として処理しており、小作品ながらすっきり決まっていました。谷澤真希の縦横1.5m以上の大木版“quelque chose enchanté”は技術的にはうまいと言えないのですがシニカルな味の楽しさが漂い、作者の日常生活感を興味深くのぞかせてもらった感じです。おもしろいという点では群を抜いていました。宮野美和の木版とリト併版「落ちる3」は題名には「3」とあるのですが、これ1点しか出品されておらず最初の審査では選外になりそうな雰囲気がありました。しかし何回も見ているうちにシンプルな良さがじわっと伝わってきて決戦投票した結果、高得点で残りました。版画アンデパンダン展のボーランドなどの作家の影響を受けているようで日本人離れしている作品でした。結果はこの4点全てが別項の通り受賞しました。

版画は表現したいことを一度版に置換えなければならず、そのためには自分のイメージが一番生きる版種・技法を選ぶ必要があります。すでにミックスメディアと言えるのですがあまり版を重ね過ぎると必要以上に美しくなってしまい、環境ビデオやバックグラウンドミュージックになってしまいます。表現には平面と立体しかないのですが、あえてその中に版画を成立させるためには、強い版へのこだわり、版への偏愛こそが求められるのではないかでしょうか。

杉山 一夫

彫刻・立体造形

● 振入点数62点(56人) ● 入選点数25点(24人)

この県展は彫刻部門と立体造形部門の二本建てだったが、今年からそれが「彫刻・立体造形部門」に一本化された。一本化は昨年から決定されていたようだが、私はその経緯について詳しくは知らない。昨年の彫刻部門の審査に当たった匠英夫氏が講評で、「…今回、はじめて彫刻部門の審査に当たって、両部門の間にどういう区別があるのかという問題に当面することになった」とあり、「両者ともに立体造形物であって、一つは具象的表現によるものであり、いま一つは非具象的表現によるとした方が紛らわしくないのではないか」と書かれているので、審査員の間で、彫刻と立体造形を分けることは非が改めて議論されたのであろう。

匠氏は両者とも立体造形物というが、概念としては立体造形のほうが広い。彫刻はそれに内包されるといつていい。したがって、「彫刻・立体造形部門」といわず、単純に「立体造形部門」としてもいいわけだが、この立体造形という概念は一方では無規定なので、名前はあるけど中身はなんでもいいというというところのなさがある。なんでもいいというのは、厳密にいえば審査困難ということにならざるを得ない。審査というのはなんらかの形式を想定して(各審査員それぞれによるが)おこなわれるものであり、たとえ、その形式をはみだしている点が評価されたとしても、暗黙で形式の想定がおこなわれている筈である。立体造形は、この形式の想定が成立し難い概念である。その点、彫刻という概念ははるかに明瞭といえる。

しかし、改めていうまでもなく、現在の美術作品には彫刻という概念に包含できないものが輩出している。それらを排除するなら、美術がきわめて幅の狭い世界になることも論を待たない。それらを暗示するよりふさわしい言葉が見出だされれば、事態はい

くぶん変わるかもしれないが、今のところうまい言葉は見当たらない。結局、立体造形という無規定な言葉を当てているわけである。

さて、彫刻と立体造形が一本化された今年の応募作品だが、応募点数は62点(人数にして56人)、昨年の彫刻、立体造形両部門を合わせた応募点数より24点減である。多分、これまでなら彫刻部門に応募しただろう作品の減少による結果だと思われる。とりわけ具象彫刻が少なかった。それと対比的にインスタレーションによる作品が多いように感じられた(これは、これまでの立体造形部門でも同様だったかもしれないが)。入選は審査員の過半数である3票以上を獲得した25点で、40.3%の入選率である。その25点のなかから4点の受賞候補作品をえらんだ。小田切秀樹の「Pool(水の形)」、三輪浩隆の「私をとりなすものの背景」、たべけんぞうの「MAGNETIC FIELD」、寺崎裕史の「Particle's Field」の4点である。

小田切、三輪の作品はインスタレーションによるもので、寺崎のそれは建築物のスケールを持つ小屋のような作品、たべのは金属のジャンクを集めた動く作品である。たべの作品は後におこなわれた賞決定の審査で大賞を獲得した。動きがこっけいさを感じさせる作品である。

全般的に見て、大きな作品が多かったが、一言付言するなら、ただ単に大きいというものが少なくなかった。立体造形の大きさというのは、考えてみれば形式の基準がないだけに、大きさも基準が決め難い。しかし、大きさというのは立体造形の抱える重要な問題だろうと思う。

中原 祐介



●2期展：工芸、書、写真

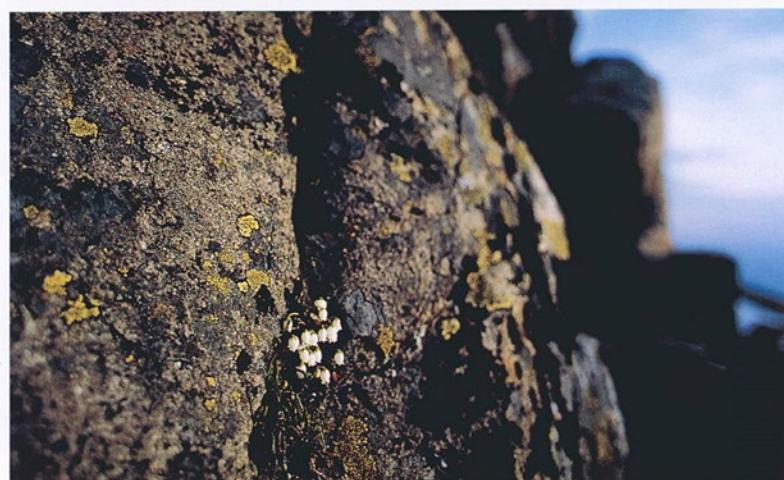
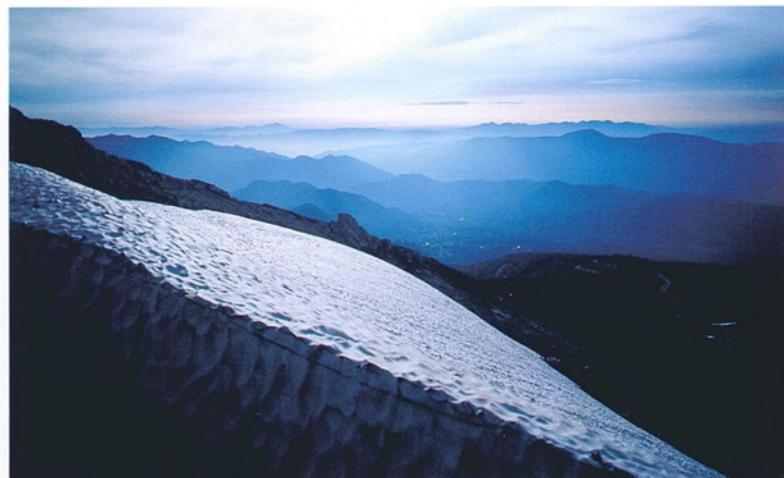
石林精舍主以東和叩禪花得春
自古有之方風和靜惟我生獨善
如此處舊苔古苔明鹿角蘚苔青
象於此可更惜哉此峰最高峰此
山故雲故人因

郎士元詩 中森 万象

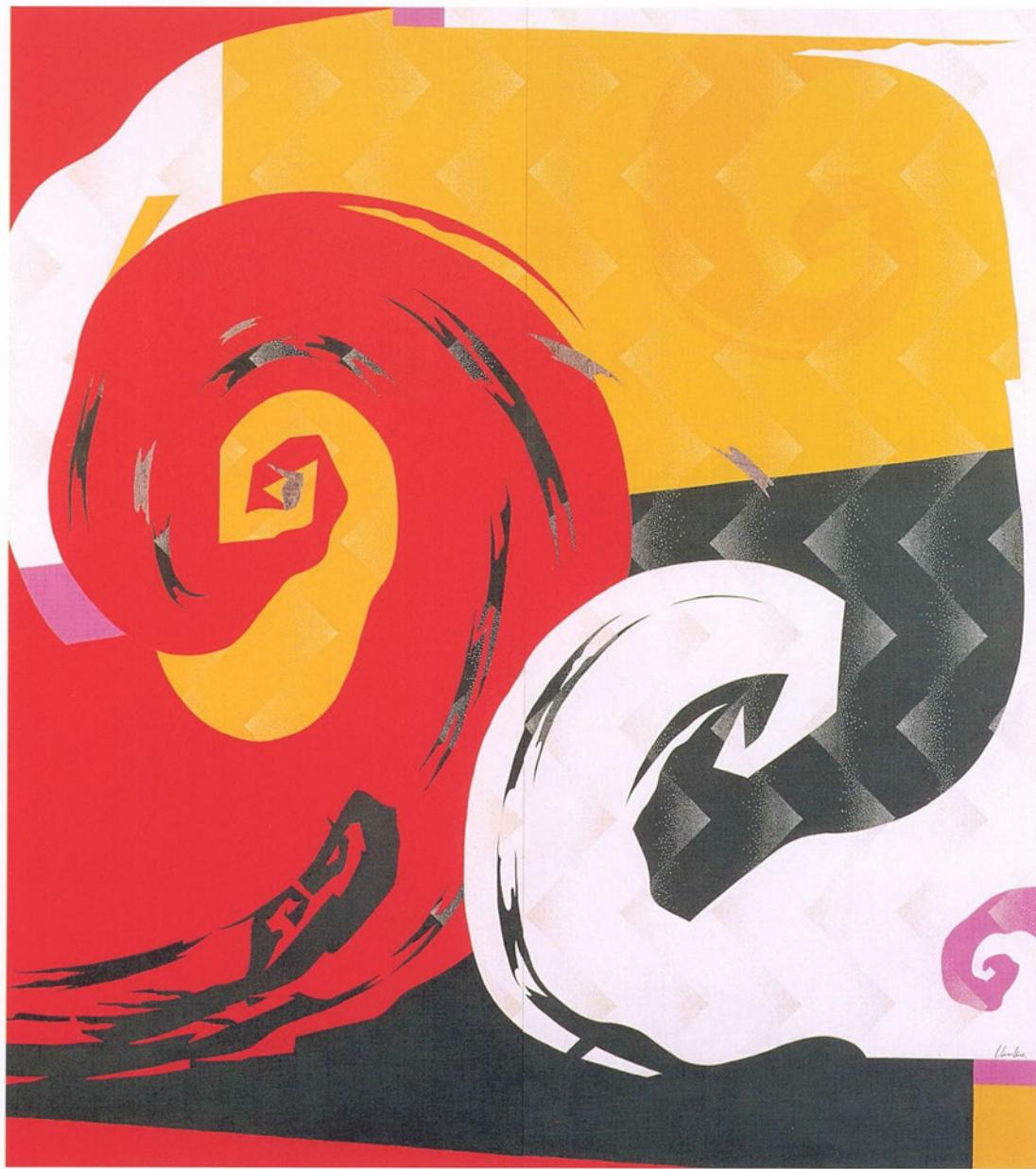
●大賞／書 郎士元詩……中森 万象



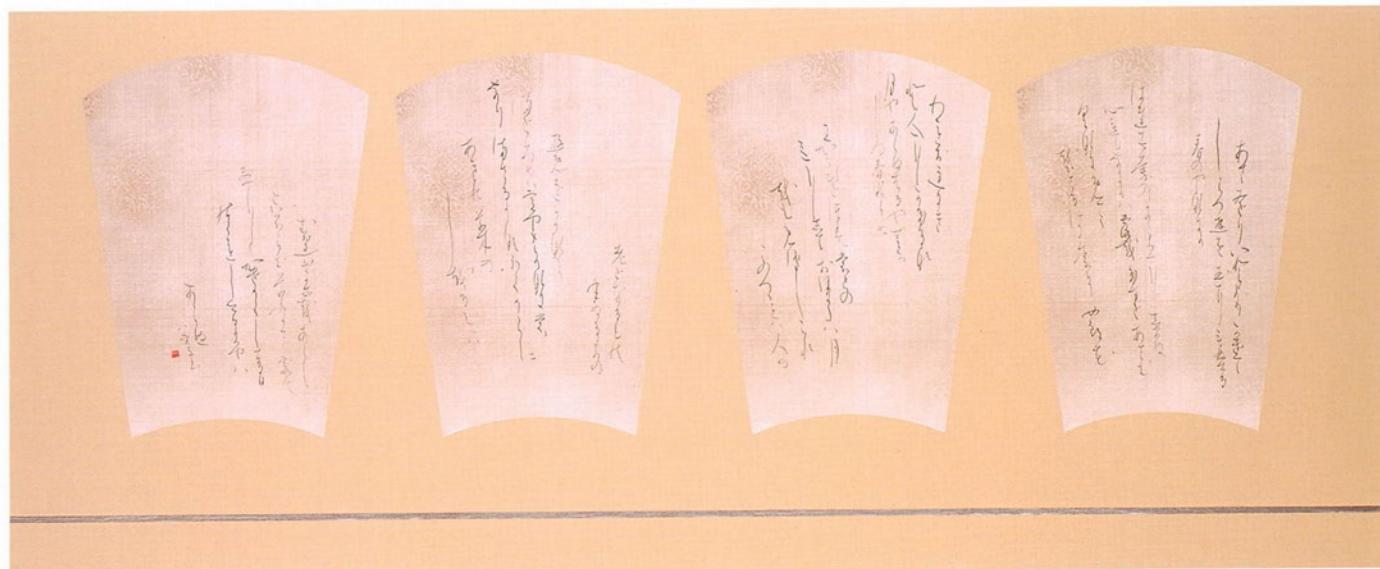
●準大賞／工芸 着物 小手毬の詩……吉岡 末子



●準大賞／写真 乗鞍澄爽(3枚組)……本間 英夫



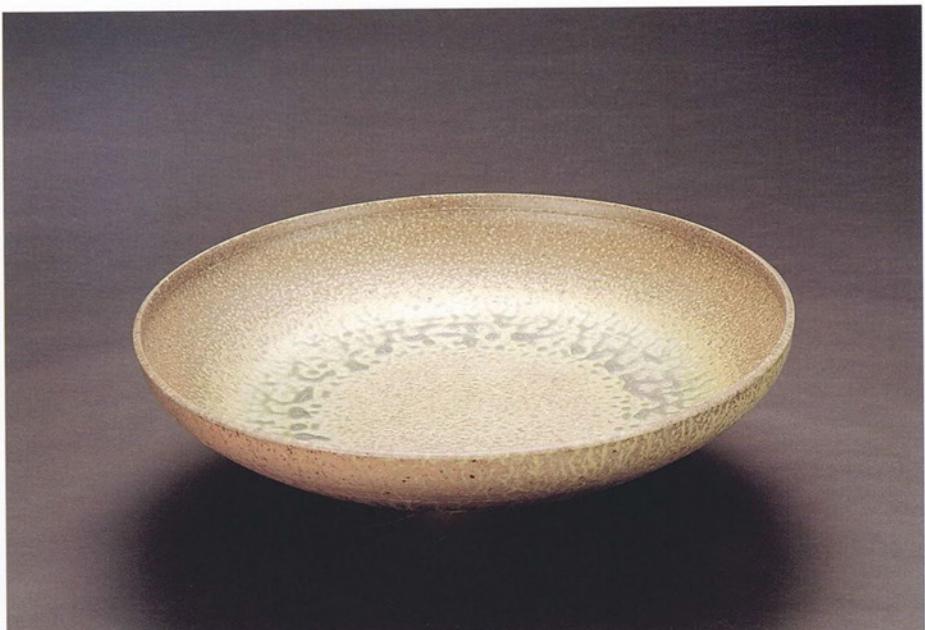
●特選／工芸 TWIRL……石渡 以久子



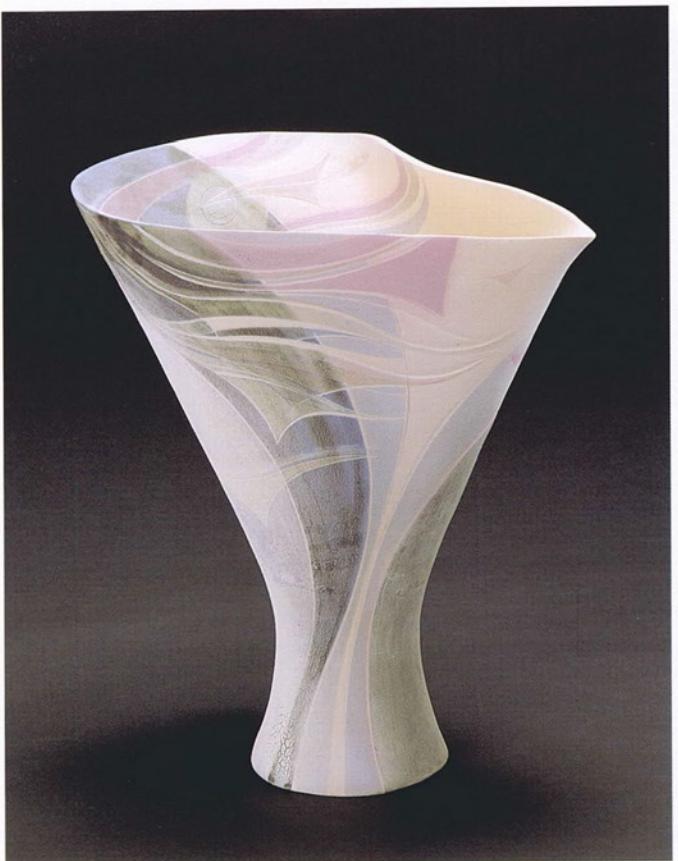
●特選／書 あさみとり……芹澤 八重子



●特選／写真 舞……中島 高美



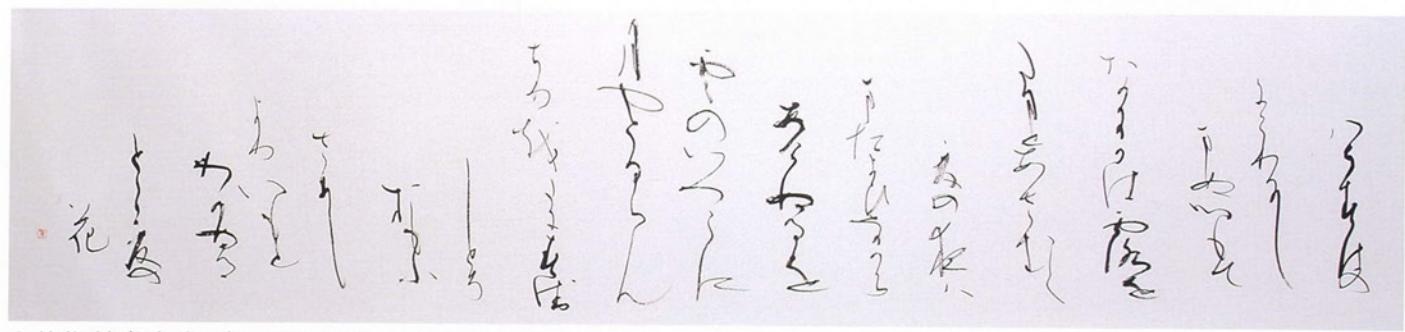
●美術獎学会賞／工芸 灰釉大皿……高橋 勝巳



●美術獎学会賞／工芸 時空…ゆらぎ……波多野 安希



●美術獎学会賞／工芸 素足の青春……高野 聖子



●美術獎学会賞／書 和歌三首……中澤 碧怜

江行
荒井 翠扇

注
地
半方閣
何嚮分
時杞無
京漢塞
洛船楓
踏汎高
馬紀映
上添葉
見新天
人夢曲
煙羈塘
燧春
基盡

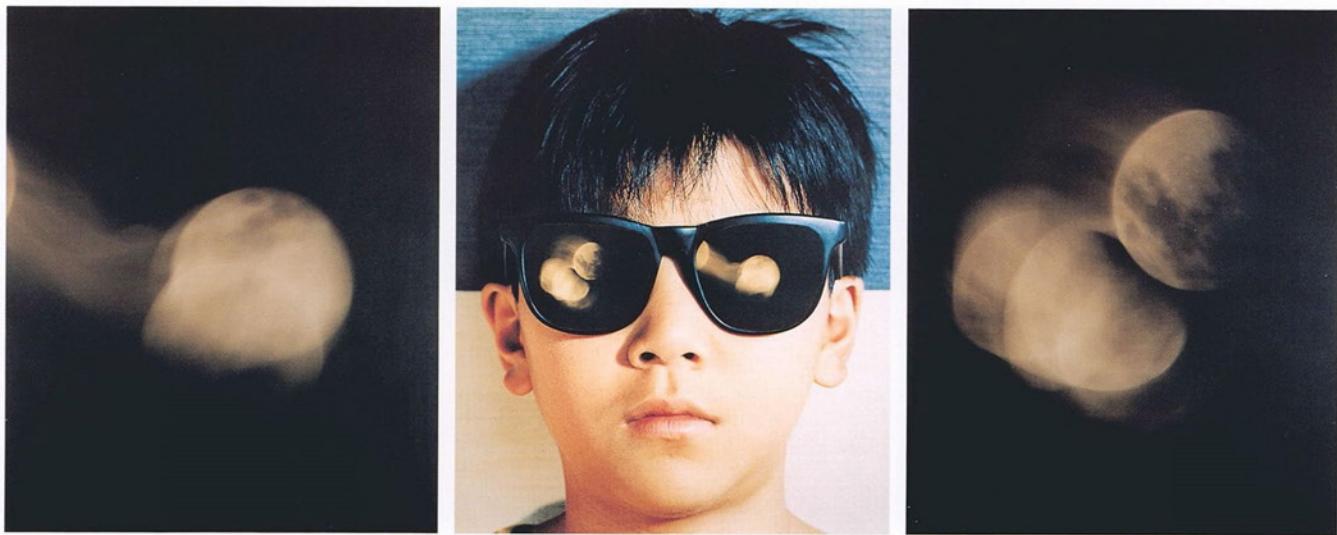
秋の野
斎藤 紫香

●美術奨学会賞／書 江行……荒井 翠扇

●美術奨学会賞／書 秋の野……斎藤 紫香



●美術獎学会賞／写真 東京ストリート……村上 吉正



●美術獎学会賞／写真 A TURNING POINT MOON DANCE(3枚組)……奈良 巍



●美術獎学会賞／写真 生花抄(2枚組)……尾原 芳子



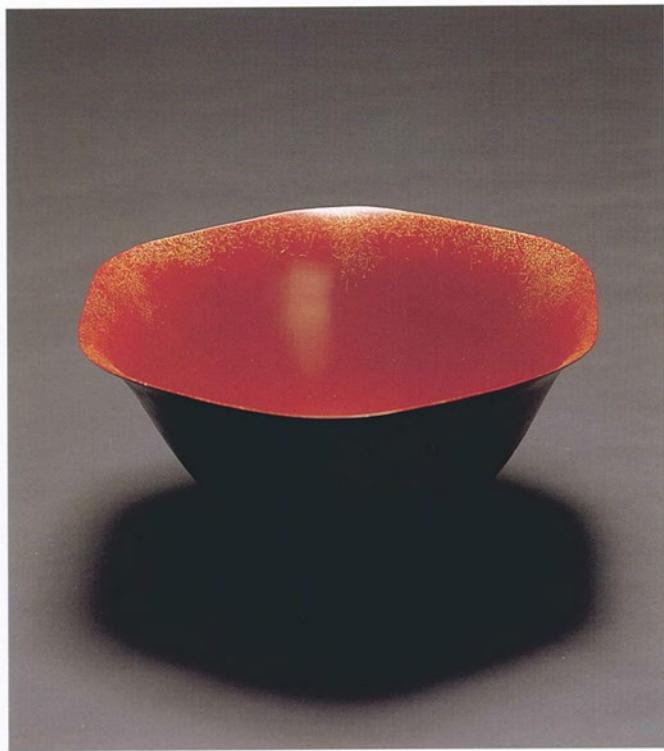
●美術獎学会賞／写真 屋根 春・冬(2枚組)……澤田 秀雄



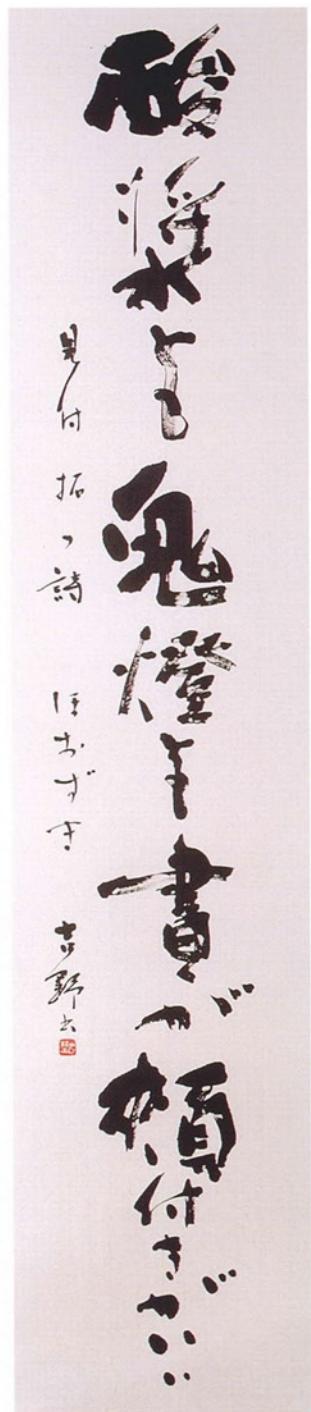
●特別奨励賞／工芸 ジュエリー……篠塚 弘美



●特別奨励賞／工芸 記……南雲 竜比古



●特別奨励賞／工芸 乾漆変り塗り六稜鉢……岩崎 忠夫



●特別奨励賞／書 見付拓の詩……綿貫 吉野

蓬萊宮闈詩

雨中亦露金華

雷厲風聲響絕

地儀空谷草木

陰氣凝山闊

雲霧雜石空

扇夕涼龍鱗

歎聖朝辭瀟

江華草綠峰

因多鎖翠班

瞿唐城上北江

門萬重風雨急

玉杜麗華東

博通忠義史

蕙苑不遺珠

籜編種園蔬

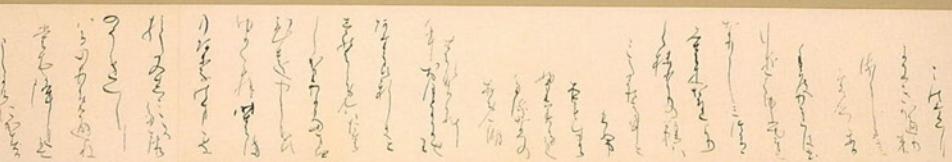
鵝鶴雙多橘

起夕鷗過早

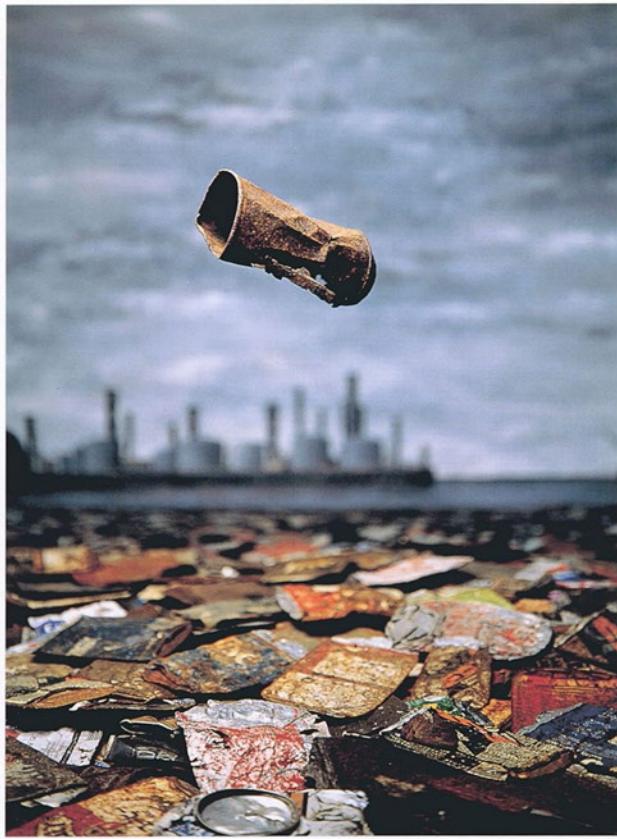
暮天春色晚

王樹一書於書

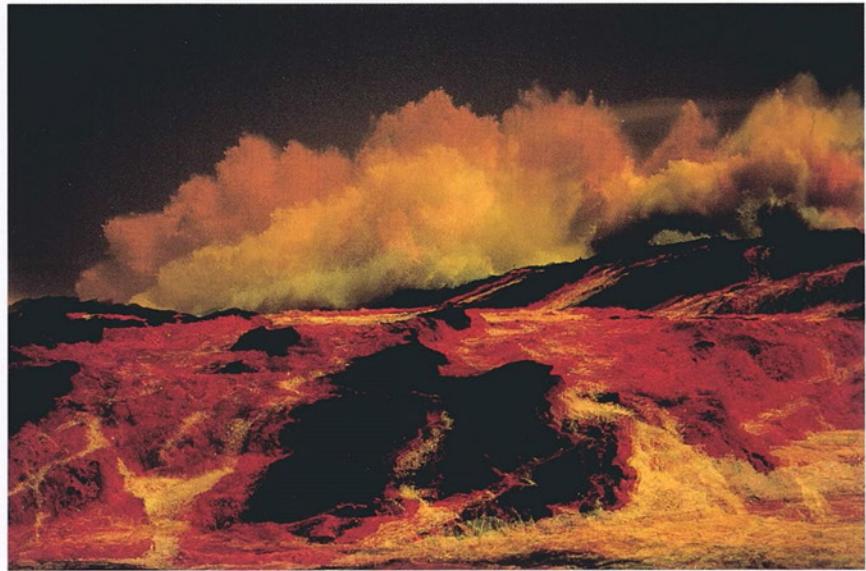
●特別獎勵賞／書 杜甫詩……三津木 兮影



●特別獎勵賞／書 茂吉の歌……佐藤 秋翠



●特別奨励賞／写真 太陽系第三惑星……靜 文雄



●特別奨励賞／写真 炎熱波……村山 章



●特別奨励賞／写真 祈願(3枚組)……渡部 義範



●特別奨励賞／写真 メジロ……久士目 毅



受賞作品目録 [工芸、書、写真 部門]

- 大 賞 中森万象 書『郎士元詩』
- 準 大 賞 吉岡末子 工芸『着物 小手毬の詩』
- 準 大 賞 本間英夫 写真『乗鞍澄爽』(3枚組)
- 特 選 石渡以久子 工芸『TWIRL』
- 特 選 芦澤八重子 書『あさみとり』
- 特 選 中島高美 写真『舞』
- 特別奨励賞 篠塚弘美 工芸『ジュエリー』
- 特別奨励賞 南雲竜比古 工芸『記』
- 特別奨励賞 岩崎忠夫 工芸『乾漆変り塗り六稜鉢』
- 特別奨励賞 佐藤秋翠 書『茂吉の歌』
- 特別奨励賞 三津木芝影 書『杜甫詩』
- 特別奨励賞 綿貫吉野 書『見付拓の詩』
- 特別奨励賞 靜文雄 写真『太陽系第三惑星』
- 特別奨励賞 村山章 写真『炎熱波』
- 特別奨励賞 渡部義範 写真『祈願』(3枚組)
- 特別奨励賞 久土目毅 写真『メジロ』
- 美術奨学会賞 高橋勝巳 工芸『灰釉大皿』
- 美術奨学会賞 波多野安希 工芸『時空…ゆらぎ』

- 美術奨学会賞 高野聖子 工芸『素足の青春』.....
- 美術奨学会賞 中澤碧怜 書『和歌三首』.....
- 美術奨学会賞 荒井翠扇 書『江行』.....
- 美術奨学会賞 斎藤紫香 書『秋の野』.....
- 美術奨学会賞 村上吉正 写真『東京ストリート』.....
- 美術奨学会賞 奈良巖 写真『A TURNING POINT MOON DANCE』(3枚組)
- 美術奨学会賞 尾原芳子 写真『生花抄』(2枚組)
- 美術奨学会賞 澤田秀雄 写真『屋根春・冬』(2枚組)

特別奨励賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新人作家の発掘・育成を目的として設立された財団法人神奈川県美術奨学会から、神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。

[工芸]

鈴木義之.....「クリスタル高壺」
山田秀雄.....「彩光」
金子清.....「鉄釉鉢」
翁長始.....「三脚香炉」
西山義彦.....「輪花櫛目鉢」
糸井惣四郎.....「瑠璃釉線彫壺」
中田文.....「透木釜」
五味仍枝.....「PATTERN(曼茶羅文)」
大野恵一.....「陶器製 粗釉、木の葉文 茶碗」
大丸洋子.....「かわとうるしのエチュード」
菊田明.....「天目鉢」
加藤瑛子.....「緯絣 タペストリー」
加瀬ヒサ子.....「応器」
出縄高昭.....「大樹」
小野塚久記.....「葆光釉練上げ壺」
石塚百合子.....「LEMON」
蓮沼芳子.....「夜桜」
高橋順子.....「紫被朝顔文様壺」
椿敏幸.....「焼締大壺」
牧千春.....「接吻」
沼野真紀.....「MOVE」
小山恵.....「海響」
大谷元夫.....「立方紋平鉢」
山田美穂子.....「黙照」
村岡由美子.....「鳥からのメッセージ」
前田順子.....「古布による文様」
石綿明子.....「花三島花器」
根岸律子.....「エルフランド」
山口浩二.....「春の波しぶき」
島幸子.....「憧憬III」
鈴木節子.....「讃歌」
久光宣子.....「囁り(さえずり)」

宮永峯子.....「遙かなり ジバング」
志田美智子.....「硝子切子鉢」
横田敦.....「長頸壺」
稻葉道子.....「額入皿」
中島律子.....「絹着尺」
渡辺真理.....「組鉢一空のこと一」
足立治男.....「ロブノール」(2点組)
田島節子.....「すくい紬織名古屋帯「想い出」」
吉川創雲.....「花器(晩秋)」
乃木吉之.....「まどか」
村田五郎.....「黄瀬戸大根文大皿」
大澤恭代.....「型染「萩」」
靄井悦子.....「型染 夕映え」
長谷川美知子.....「焼〆花器」
佐久間美佐子.....「インスピレーション」
今井悠紀子.....「かがり火」
相原弥.....「停」
杉山雅子.....「伸」
石丸伸子.....「ベコニア」
服部純.....「乾漆水指」
梅田千晶.....「モノ入れ」
松原夫佐子.....「下絵枇杷図五ヶ組皿」
馬上知加子.....「雅(みやび)」
木村隆男.....「備前 大徳利B」
木村文明.....「陶板」
桑原平治.....「花生」
河端直子.....「ドラ鉢」
瀬戸毅巳.....「青磁壺」
橋口義昭.....「青被色抜緑斑紋盛皿」
島村信一.....「wing」
多々内都子.....「遠花火に想う」
長崎悟.....「窯変大壺「山吹」」

- 飯島克己『ふっくら雀帶型香合』
小野寺和子『花篝』
村主 武『空間の終焉』
竹内 宏『灰被り信楽壺』
吉川愛里『灰釉線文壺』
金子将之『練上花器「夢境」』
倉田俊一『栓寄木造手箱』
青木 哲『練上げ皿「萬花」一ばんか一』
岡 達夫『鎌銀杖頭“笹”』
三輪博子『出発<たびだち>』
水越 繁『燐々』
米山 光『信楽大壺』
村尾淳子『銀研出梅形皿』
内田正男『鉄釉壺』
平野朱美『Lady Melody』
笠野百合子『ひまわり』
宇田川佐由子『幻』
浜本洋子『宇宙空間』
並木昭代『港案円版』
太田美佐枝『秋色』
佐藤縁子『秋韻』
中村良哉『乾漆朱金 石地塗鉢「開花」』
林 保美『乾漆 朱金盛器』
山下あけみ『女のバリエーション(Ⅰ)(Ⅱ)』
佐藤京子『環』
大石英夫『禾天目茶碗』
田原恵一『ジュウリー』
村田真樹『WAVE』
渋谷祥子『タビストリーB』
富澤宣成『切子硝子鉢』
織田幸子『薰風に咲く』
本田敏晴『勝者の顔』
羽生恵子『穏やかな波動』
柴田近子『時を越えて』
多賀ちか『波童子』
栗原恒子『春囀』

[書]

片岡和風『尾崎喜八詩「新しい風」紺碧の磯に…』
塩沢鶯州『万葉集』
平間愛子『臨書 桂本萬葉集』
笈川虹竹『贈湯若望詩』
高橋瑞石『杜甫詩』
布野玉桃『和歌二首』
川手敬湖『古今和歌集の歌一首 世にふればことの葉』
松田松逕『俳句高桑闌更 雨乞ひや火影に動く雲のみね』
越坂翠園『万葉集より和歌三首』
住本霞城『おもふにし』
山口桐里『万葉集大伯皇女歌二首』
弦間秀僊『萬葉集「四季の歌」うちなびく』
中村咲子『元永本古今集 臨書』
仁上小葉『歩して東臯に至る』
沓掛和絵『万葉の歌二首』
阿部なほみ『唐詩望蘄門(租詠)』
西木梅子『ひさかたの』
和氣清堂『李白詩 江上吟』
吉本寿峰『五言律詩 和康五望月有懷』
小田原星華『梅が香』
木多良子『春日野に』
丸山美津江『月はなほ』
松永瑞子『雲はみな』
清水幸枝『うす霧の』
今井幽耿『王維詩』
杉山幽翠『孫逖詩』
鈴木玉葉『送崔融』
福井幽紅『王勃詩』
井岡秋月『張祜詩』
河野顯吾『王灣詩』
深松耿翠『王維詩』
大島佐和『李白詩』

牧野忠雄『三好達治詩 桃の花さく』
座間幽洋『遣興(文天祥)』
松本亘正『王維作 観獵詩』
小巻僊空『張謂詩』
黒田杪嵒『千謙の詩』
小林清坡『鄭谷詩二首』
横山芳碩『雨霖鈴(柳永)』
浅羽紀代子『蘇東坡念奴嬌』
藤谷桂雪『漢詩白樂天詩』
江口龍路『楓橋夜泊』
浜岡見雲『劉基詩』
赤石梨花『春の日』
佐藤青香『木のもとは』
俵山規子『ほのぼのと』
服部青昌『あづさゆみ』
関口青霞『ほのぼのと』
逸見月草『朝ばらけ』
伊藤青光『うたたねに』
山ノ井青咲『たれをかも』
新井青谿『陸游詩』
黒坂春香『万葉集』
加藤靖湖『大伴家持の詩二首』
鈴木白鶯『秋』
高尾成蹊『古今和歌集』
伊藤子扇『臨針切』
斎藤潤子『六歌仙』
西尾登喜子『万葉長歌』
新堀桜泉『七言絶句(鮑溶)』
小林千幸『見付拓詩 西湖小景』
穂坂美代子『日本砂漠(草野心平詩)』
安田達子『草の葉っぱ』
指旗登美『田中冬二の詩 家根に鳶尾科の花の咲いた家』

日守菜穂子……………『近代詩文書 丸山薫の詩 帆が歌った』
高橋秀栄……………『みずうみ』
千葉清子……………『俳句』
石井富代……………『帶』
袖原靖美……………『新川和江の詩』
堤智子……………『道ゆく人に』
和田里枝……………『越後路』
佐藤春水……………『參宮詣』
名畑美峰……………『遠くへ行きたい』
大木銀子……………『該里酒』
大木明子……………『夏目漱石の句』
山士家啓子……………『横溝養三の句』
井上信子……………『油本達夫「開港広場より」』
福島霞葉……………『朝日新聞社説より』
八木香葉……………『宮澤賢治の詩 中尊寺』
八木静香……………『帰郷』
茂又武子……………『北の海』
廣川心齋……………『遠藤千秋の歌』
梅田昌葉……………『イギリスの伝承童謡 マザー・グースの唄』
武居尚琴……………『立川しほりの詩 凤仙花』
深浦桂子……………『矢沢宰の詩 一本のすじ雲』
馬場虹苑……………『笹原常与の詩 使い走りの子』
深川静燕……………『ギヨーム・アポリネール詩 秋』
鷺見奈保子……………『吉行理恵の詩「初春」』
問馬敬竹……………『金子光晴の詩 血』
上村仙石……………『八木重吉の詩 心よ』
国谷寿……………『真珠抄序品』
伊奈未紗……………『みのののみ』
玉田まみ……………『竹久夢二』
菅谷弘巳……………『約束』
小泉恵俊……………『三国峠』
眞鍋光子……………『句(自作)』

佐藤曜香……………『孫逖詩 宿雲門寺閣』
饗庭雅翠……………『高座の…』
高橋芳声……………『さくらいろに衣はふかくそめてきん花
のちりなむのちのかたみに 紀有朋』
平田十臥……………『唐詩二首』
原龍児……………『神』
入江正洲……………『良寛詩』
府川小扇……………『百人一首』
宮澤青峰……………『李白詩春日醉起言志』
山本花聲……………『唐詩』
進藤紀子……………『曹植詩』
野頭莊雲……………『登古鄴城』
池田莊春……………『宣政殿退朝晚出左掖』
小山莊雪……………『宿壘公禪房聞梵』
北浦豊舟……………『古意』
門倉松扇……………『題張氏隱居』
鈴木天鳴……………『五日觀妓』
神藤莊松……………『唐詩』
田所寿泉……………『九日藍田崔氏荘』
若林花泉……………『唐詩 紅樓院応制』
鈴木莊鶴……………『唐詩』
佐藤右松……………『漢詩(曲江對酒)』
中山愛泉……………『奉和庫部盧四兄曹長』
田村秀亭……………『唐詩』
内田祥邨……………『閨夜』
山口壯谿……………『秋興四』
谷口春泉……………『蘇東坡詩』
鎌田格処……………『李長吉詩』
尾崎静鳳……………『岑參詩』
柴岡明洞……………『劉長卿詩』
佐藤柚処……………『明詩選五首』
武田瞳処……………『杜牧詩』

- 菅野堯処 『帰田園居』
茂泉草處 『鮑恂詩』
佐竹花泉 『陸游詩』
楠琴処 『王維詩二首』
廣町茜泉 『陸游詩』
野澤游泉 『李憕詩』
松本薰泉 『羊士諤詩』
糸谷桃泉 『崔顥詩』
立橋飛鳳 『姚合詩』
菊地順恵 『杜甫詩』
原悦子 『李賀詩』
鈴木香旗 『良寬詩』
早瀬香谷 『王維詩』
加藤翠郷 『李白語』
柴田李笙 『唐詩』
池上好子 『松虫』
佐藤俊恵 『ふるさと』
長島紫光 『和漢朗詠集』
小山翠謡 『黃山谷詩』
永田棹舟 『杜甫詩』
柿本山秋 『李太白詩』
大山青高 『琵琶行』
木下清華 『あふ坂の…(紀貫之)』
坂口みち子 『和歌三首 房ながら』
入澤八祥 『小学校学習漢字句』
増田京子 『栗の木』
浅間秋蕙 『萬葉の歌一首』
小川如泉 『高啓詩、青邱子歌』
中村蒼汀 『張若虛詩』
新屋京子 『張九齡詩』
渋谷松聲 『錢起詩(江行)』
篠原圭苑 『王維詩』
- 簾島湘映 『源実朝の歌三首』
岡本蘇心 『西行の歌(おしなべて)』
明石蕙州 『難波瀉の歌』
秋重蕙永 『信濃路の歌』
高野梅香 『会津八一のうた…二首』
井澤洋高 『西湖晚歸廻望弧山寺贈諸客白居易』
菅井穂谷 『李白詩』
増木萌寿 『劉長卿詩』
渡辺悟竹 『訪戴天山道士』
木村晴雲 『(唐)張説詩』
春山右濤 『李賀詩 南園』
横山蘭葉 『(唐)錢起詩』
山田恵茜 『鄭燮詩「喜雨」』
茶木静萌 『咸陽城東樓』
和田静月 『(唐)劉長卿』
大木修葉 『幽州新歲作』
木下静朝 『林逋詩』
元松松茜 『宿瑩公禪房聞梵』
富山陽寿 『高適詩「夜別韋司士」』
藤原星汀 『陸游詩』
三村セツ子 『杜甫詩(登樓)』
安部梅陽 『蘇東坡詩』
池瀧右耀 『王維詩』
中溝右暉 『杜牧詩』
松尾右翠 『陸游詩』
東山右徹 『馬存詩』
菱田右紫 『杜甫詩』
菊島右雪 『杜牧詩』
高田右莎 『杜甫詩二首』
岩土右紀 『杜甫詩二首』
石井右千 『杜甫詩』
橋本抱葉 『送崔融』

滝 口 伸 葉『杜甫詩』
木 須 青 苑『杜甫詩』
鈴 木 青 秀『美村』
大江喜桂華『百人一首』
秋 元 恵 子『春の歌二首』
大久保矩子『桜花』
神 東 榮 春『李白詩 長千行』
渡 辺 彰 苑『幽州新歲作』
青 木 湘 堂『白樂天詩 効陶潛體詩其四』
貝 原 積 真『漱石詩』
加福しづゑ『ほととぎす』
檜 垣 房 仙『管訥詩 桃花歌』
中 山 滋 子『一条摂政集』
河 合 伸 泉『王鐸詩二首』
島 田 幸 舟『山桜』
川 添 紅 玲『蘇軾詩 麗人行』
八十川悦子『“はる来ぬと、いまか諸人ゆきかえり 佛
の庭に花さくらしも”その他和歌四首』

[写真]

小室八千雄.....『芽吹き』
高橋 弘.....『御柱祭』(4枚組)
越川敏子.....『北欧の港町』(3枚組)
笛尾佳夫.....『マイホーム』(3枚組)
佐藤健一.....『光輝』
堀坂和夫.....『泥濘の闘い(高校ラグビー)』(3枚組)
山崎廣.....『赤レンガ倉庫クリーンキャンペーン』
青木保親.....『夕暮れの詩』
岡田貢.....『称名寺彩照』(2枚組)
小澤秀雄.....『夕映えの燈台』
田辺和郎.....『反映と垂直の弁証法(バジュラ
ル)モネの池にて(2)』(2枚組)
戸塚吉久.....『竹林の庭(報国寺にて)』(3枚組)
高橋 奨.....『梅雨』
藤井けん.....『木造船』(3枚組)
和田幸夫.....『異性の友情』
村山 章.....『蓮』(2枚組)
平井和穂.....『昏黒の山—未来の残像—』
渡辺シゲ子.....『紅雲富士』
高木英明.....『Phoenix』
坂正久.....『雨の慕情』(2枚組)
上原公平.....『初雪』
上原公平.....『親子』
本間 稔.....『祭り雛子』
小崎敬司.....『霧景』
さとう陽子.....『はざまに関してi』
中岡利夫.....『ゆっこのお出掛け』(3枚組)
三橋幸子.....『砂漠に生まれて(モンゴル・ゴビ)』
津布久諭.....『一激動のバルトー』(3枚組)
渡部義範.....『森の精』(3枚組)
山田弥一.....『猫まつりの宵』(3枚組)
安井博道.....『黄山煙景』

長橋達也.....『Welcome to Y'hamama』(3枚組)
松本時二郎.....『競べ騎馬(相馬野馬追)』
鈴木貞夫.....『春想』
町田昌弘.....『湘南・光の伝説』(3枚組)
小林瑠璃.....『Water』(3枚組)

工芸

● 撃入点数226点(180人) ● 入選点数108点(108人)

今回の出品点数は180人による226点であって、前回の191人による234点と比べると、人数では11名、作品数では8点の減少である。私は以前から考えていたのであるが、折角毎年盛大に行うこの県美術展に対して、もっと多くの人々が参加するようにならなければならぬのではないかと思うのである。

元来、県美術展の〔工芸〕というものは、必ずしもプロの作家やその後継者だけを育成するための舞台ではなく、さまざまな工芸分野の制作に興味を持っているノンプロやアマの県民の人々が、それぞれの個性を素直に表現した作品を自由に出品出来る場所でもあって欲しいのである。そのため、出品作品は前衛的な要素がなければならないとか、伝統的であるべきであるとか、あたかも県展が一つの主張を掲げた団体活動の温床ででもあるかのようなものにならずに、より自由な発想のもとで出品者は率直に自らの個性を発露させながら、プロはプロらしく、ノンプロはノンプロらしく、そしてアマはアマらしい作品を気楽に造って応募すればよいのである。そうすれば、県民全体にわたって工芸への関心や工芸制作の意欲は共に高まり、応募者の数はますます増大することと考えられる。

現在の県美術展における工芸の在り方も、以上述べて来た在り方に次第に近づきつつあるとはいえ、もっと徹底させるべきであ

ろう。

今回の応募作品は、特に傑出していたものは無かったが、平均して成績は良好な作品が多かったといえる。力量のある作家が二点以上応募して二点以上入選した場合、入選は一人一点と決めたために惜しい作品が落選した。そうでない落選の場合は、その原因を列記すると、大方は○時代的感覺が大きくずれているもの、○徒らに古典的作品を模倣して以て非なるもの、○自分だけの殻に閉じ籠っていて観るものに創作の意図が分からず、美しくないもの、などである。

終わりに、賞を受けた優秀作品を述べると《準大賞》○吉岡末子さん(茅ヶ崎市)手描き風の型染着物〔小手毬の詩〕。《特選》石渡以久子さん(川崎市)染色パネル〔TWIR〕。《特別奨励賞》○南雲竜比古氏(横浜市)陶芸〔記〕。○岩崎忠夫氏(横浜市)漆芸〔乾漆変り塗り六稜鉢〕。○篠塚弘美さん(横浜市)装身具〔ジュエリー〕。《美術奨学会賞》○高橋勝巳氏(南足柄市)陶芸〔灰釉大皿〕。○高野聖子さん(船橋市)人形〔素足の青春〕。○波多野安希(足柄上郡開成町)陶芸〔時空…ゆらぎ〕。

いづれにせよ、観る者の心を抉るような美しさと、従来、觀したことのないような斬新で格調のあるものを独創してもらいたい。

吉田 耕三

書

● 振入点数289点(289人) ● 入選点数216点(216人)

本年は昨年より11点の増加であった。例年のように、これ等熱意溢れた作品に対して公平厳正に審査に当たった。

漢字作品165点かな作品75点近代詩文作品49点に分類される。漢字・かな作品共に多字数作品が増加しつつあるように思われる。

漢字作品は、篆隸楷行草と書体も多様であり、又その技法・表現も多面化しつつある。何れも古典に立脚した確かな技法のものが多い。但し表現過剰であったり、不安定な技法が若干あったのはこれから練磨によって補われることであろう。

かな作品も漢字作品とおなじく多行作品が目立って増加しつつある。從来平安朝時代の古典の臨書作品も多かったが、それ等を基盤とした中字作品に挑戦しつつあるのであろう。

近代詩文作品は、白紙に濃墨の切れ味のよい作品は近代的である。呼吸の切迫したように見受けられるのは、古典を土台とした分野の感慨であろうか。

入選作品のうち何点かの感想を述べる。

大賞 中森万象さん 行草体漢字五行、着実温健な作である。こうした何等のハッタリもない地味な作品が上位にあるというのも、神奈川県美術展の密度の濃い審査行為ならではと思う。特選 芹沢八重子さん 長巻を見事にまとめている。少しの破綻も見せていないいたしかな技倆である。特別奨励賞 佐藤秋翠さん かな中字を二段に書き流し、かな作品としては珍らしい筆力の富んだ作、しかも和潤を失っていない。三津木芝影さん 杜甫の詩を横展開に揮毫し雄健な筆致で、序破急の変化も見事である。綿貫吉野さん、縦一行に切れ味よく大胆な表現である。墨色は黒一色であったが、もう一息工夫を加えたら効果が増したことであろう。美術奨学会賞 荒井翠扇さん、たしかな安定した技法の隸書三行作品。スピード感も盛り込んで単調さを救っている。斎藤紫香さん かな作品として珍しい渴筆の部分を強調してダイナミックにまとめている。中沢碧怜さん、楚々とした静かな作が、筆力雄動、渴筆変化などの作にまじって息をのむ静けさを見せて効果的であった。しかし本筋はこれからである。

殿村 藍田

写真

● 振入点数171点(82人) ● 入選点数86点(42人)

七つの既成芸術はフィクションで、化学時代に生まれた写真は、ノーフィクションが本来である。しかし当県展は、その展示効果のよさをかって、ピクトリアリズムの作品の入賞率は比較的いい。

準大賞「乗鞍澄爽」本間英夫と特選「舞」中島高美は、その優劣を最後まで競ったが、乗鞍山脈の静かな美しさを追求した地道なりアリズムに、軍配が上がった。特選「舞」は、男蝶女蝶がたわむれているロマンチックな日本画のような作品だが、紋白蝶に光がきいていて、写真的よさを充分に出している。しかし構成的な作品と、山岳のアリズムをふんだんに駆使した作品では、おのずと勝負はきまった。

特別奨励賞「祈願」渡部義範は、祈願する人の3態だが、人物が面白い。ただし能面の人物の意味がわかりにくい。題材の祭礼は、多くの人が写すので同工異曲になりやすい。それをこの作家は祭礼を題材にして、まったく違った解釈で展開する着想が秀逸である。「太陽系第三惑星」靜文雄は、題名がオーバーすぎた。つぶした空カンの連想は、世紀末的な地の果ての世界である。次回は素材を変えて、風刺作品をなお追求してほしい。「炎熱波」村山章は、特殊技法の作品だが、面白い色がでていて、抽象効果をあげた。「メジロ」久士目毅は、目白という平凡な鳥を素材にして、凝りに凝った表現技法で異色な作品にした。

美術奨学会賞「ムーン・ダンス」奈良巖は、ベテラン独自の作品だが、見た瞬間あっと思った。意外性の映像は独得だが、時間がたつにつれ劇画のようであり、意図が今一步伝わってこないのだ。「屋根・春冬」澤田秀雄は、日本古来の建造物の、雪が降りつもった冬の屋根、霞につつまれた春の屋根が対象的に描かれた。気品の高い美しい風景が観賞する人の心にじへんとくる。「東京ストリート」村上吉正は、原宿の若者達を描いたもので、近代的な都会の断面図を人物のアップでよく表現した。東京の街で、自由奔放に遊び暮らす若者たちを浮き彫りした。「生花抄」尾原芳子は、美しい花の作品だが、花の置かれたムードがいい。ただ花は美しいと言う浅薄な作品ではなく、こつりと花の美しさを表現した。

奥村 泰宏



大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品I』洋画
第3回	42年度	垣内治雄『坐る』彫刻
第4回	43年度	川村直子『'69-A・'69-B』洋画
第5回	44年度	山井イク夫『Lady 70-1・2』立体造形
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利團『Straw』工芸 西川万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽん NONSENSE ZONE』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津碧嵒『寒山詩』書 大谷正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川充宏『Girl in chair』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画
第11回	50年度	鎌田恵子『Lost my way』工芸
第12回	51年度	泉谷淑夫『愁傷のモニュメント』洋画
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-'77』彫刻
第14回	53年度	坂田一之『MIRROR』立体造形
第15回	54年度	前本利彦『暗い部屋 I・II』日本画 川口流坡『菅原道真詩』書
第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原欣一『ふるさと』写真

第17回	昭和56年度	坂井彰夫『SEISHO』彫刻 高木参平『BODY』工芸
第18回	57年度	小泉正彦『冬の木』洋画 井上隆敏『イグナドバ選手』写真
第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木静谷『竹蘆松影』書
第20回	59年度	東谷武美『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 巨『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第21回	60年度	鶴見厚子『夢の質感』洋画 石渡四郎『硫黄島の再会』写真
第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本艸舟『良寛詩』書
第23回	62年度	高橋洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形 森山可余『俳句(原石鼎)』書
第24回	63年度	三枝孝司『複製させた場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻 片岡順一『大気現象』3枚組写真
第26回	2年度	山本靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第27回	3年度	荒井正美『蟻の迷走』彫刻 相沢淳一『樹界』2枚組写真
第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』彫刻立体造形 中森万象『郎士元詩』書

第28回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉遊亀
斎藤義重
圓鍔勝三
蓮田脩吾郎
殿村藍田
比田井南谷

委員会委員

委員長 上野 豊
副委員長 菅原寿雄
美術展委員 井上信道
奥村泰宏
加藤東一
神戸由雄
國領經郎
斎藤義重
斎藤寿一
酒井忠康
匠秀夫
弦田平八郎
殿村藍田
永井鐵太郎
中原佑介
針生一郎
柳生不二雄
吉田耕三

大賞・準大賞選考委員

日本画、洋画、版画
彫刻・立体造形
近藤弘明
弦田平八郎
國領經郎
酒井忠康
斎藤寿一
針生一郎
井上信道
斎藤義重

工芸、書、写真
永井鐵太郎
吉田耕三
菅原寿雄
殿村藍田
奥村泰宏
江島隆

審査員

日本画	
加藤東一	
近藤弘明	
鈴木竹柏	
弦田平八郎	
洋画	
奥谷博	
國領經郎	
酒井忠康	
匠秀夫	
野田弘志	
吉田克朗	
版画	
清塚紀子	
小林清子	
杉山一夫	
斎藤寿一郎	
針生一郎	
彫刻・立体造形	
井上信道	
井上玲子	
斎藤義重	
中原佑介	
最上壽之	
柳生不二雄	

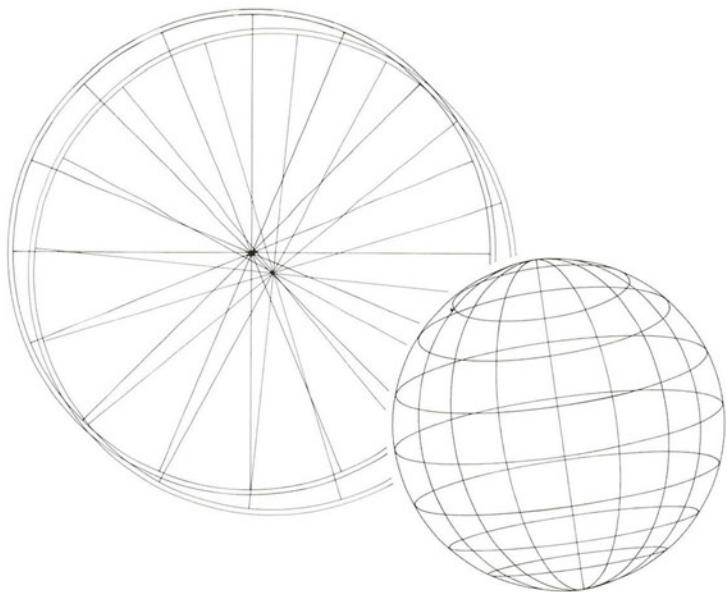
工芸	
赤堀郁彦	
市原富士子	
鈴木三成	
永井鐵太郎	
中田呂尚	
南雲陽	
吉田耕三	
書	
岩沢蕙堂	
大島嵒山	
菅原寿雄	
溪口幽城	
茶木静谷	
殿村藍田	
船本芳雲	
吉田蘭処	
写真	
板見浩史	
江島隆	
奥村泰宏	
浜口タカシ	
三輪晃久	

日本画	
浅見信夫	
◎大山鎮	
能島和明	
洋画	
石田茂嗣	
◎白鳥三郎	
鈴木雪子	
松野俊雄	
版画	
大庭明子	
三枝孝司	
◎日向野桂子	
彫刻・立体造形	
◎井上麦	
井上しげこ	
長江眞弥	

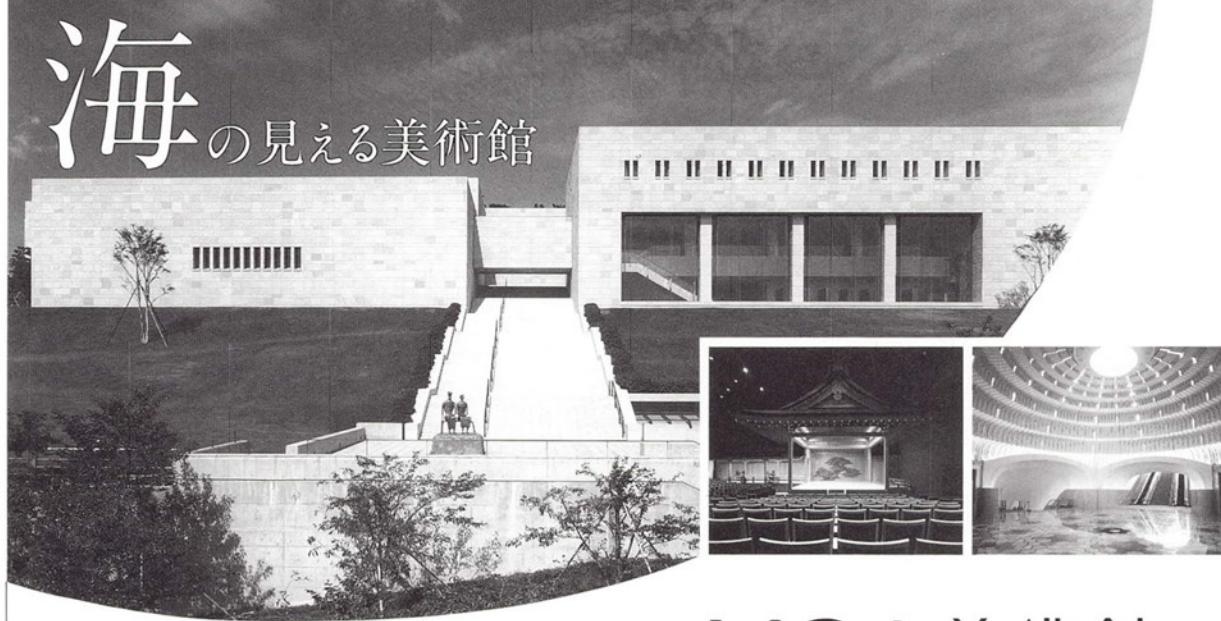
工芸	
◎飯野啓三	
勝文彦	
工藤直	
斎藤孝子	
芝山吉邦	
坪内君子	
永井ひとみ	
尾留川忠	
松本祐昌	
書	
飯田美砂子	
伊奈翠陽	
篠田朋泉	
◎竹田悦堂	
丹羽蒼処	
吉田春翠	
写真	
阿部タモツ	
篠崎明弘	
鈴木健夫	
高橋勤	
中島倍三	
◎三井文一	
吉田健吉郎	

◎は実行委員長

ごあんない



海の見える美術館



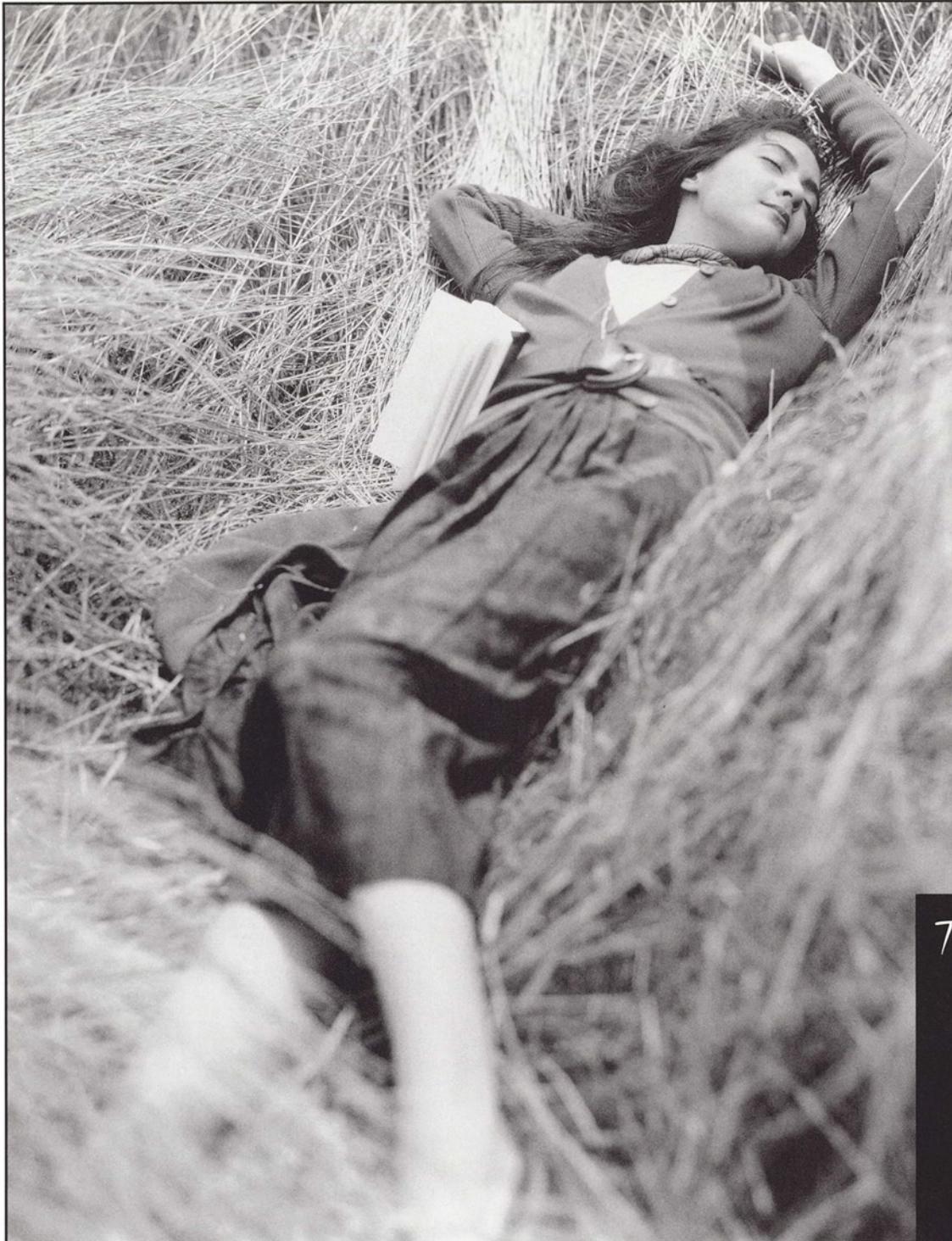
開館／9:30AM～5:00PM（入館は4:30PMまで）

休館／毎週木曜日（祝日は開館）

●熱海駅よりバス④番のりばMOA美術館行

MOA美術館

住所／熱海市桃山町26-2 TEL(0557)84-2511



夢を見ることは、陽と水に抱かれることにも似ている。

The ダイヤモンド
YOKOHAMA

'94 30th Anniversary
'93
'92 LOOK FUTURE
未来を、感じよう。

男力まさりと、男力振り。



横浜駅東口

PORTA

都会派の新ギフト プリペイドの タカシマヤ バラカード



タカシマヤ バラカードは、新ジャンルの生活百貨カードです。
●1,000円 ●3,000円 ●5,000円 ●10,000円 ●30,000円 ●50,000円 ●100,000円の7種類
タカシマヤ バラカード、こんなところが便利です。

①お買物のたびごとにわざらわされる小銭の心配がありません。②ご贈答用にスマート。③ギフトパッケージ(無料・有料の専用パッケージ)を各種ご用意いたしております。④裏面にはご利用月日と残額が30回まで表示されます。

※なお、ご利用回数が30回を超えたカードにつきましては、高島屋各店の商品券売場にてご利用残高分のカードを再発行いたします。

※タカシマヤ バラカードは、ギフトカード1,000円券などの一部の商品を除き各店でのお買物をご利用いただけます。

※バラカードをお求めの際には消費税がかかりません。

バラカードのお求めは

- 横浜店：1階商品券サロン・6階商品券売場で承ります。

——全館夜7時まで営業——

 **Takashimaya** • YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111/水曜定休

くらしの愛言葉、AMカード。



A.M.CASHING

専用CD機で分割払いOK！

さいか屋各店の専用CD機で、暗証番号と金額をおさげて、ご利用いただけます。

専用CD機設置場所

- 川崎店=8階
- 横須賀店=大通り館3階
- 藤沢店=1階

A.M.SHOPPING

お支払いは3つのコース

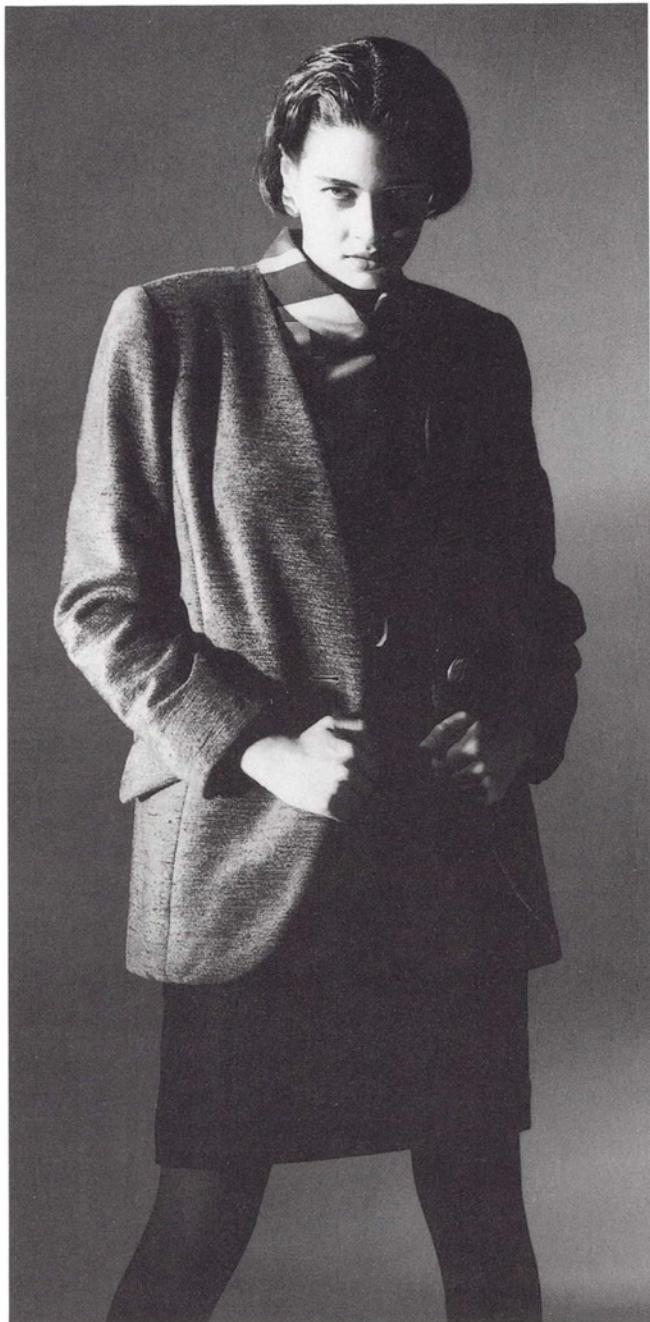
- ① 回払い—5%優待割引の特典
月々5千円・1万円・2万円と3種類
のご指定のコースによる分割払い
- ② リボルビング払い—3%優待割引の特典

お申し込み・お問い合わせは
クレジットカウンターまで

- 川崎店=5階
- 横須賀店=南館5階
- 藤沢店=4階

さいか屋





'92 AUTUMN FASHION
DISCOVERY
Old & New

イタリアの伝統 アメリカの感性

ブリティッシュマインドが生きている男のディミトリー
カジュアルな雰囲気を持つ大人の女のディミトリー
この秋は上質でリーズナブルなラインアップです



Dimitri

■本館3F
レディスエレガンスフロア
ディミトリードンナブティック

■本館4F
メンズカジュアルフロア

MatsuZakaya

〒231 横浜市中区伊勢佐木町1-5

イセザキ・モール 水曜定休 ☎045(261)2121
平日10時→6時 土・日・祝は6時30分まで
本館1階・地階・西館1階は連日 7時まで営業

プロラボサービス [コダックイマジカ・横浜]



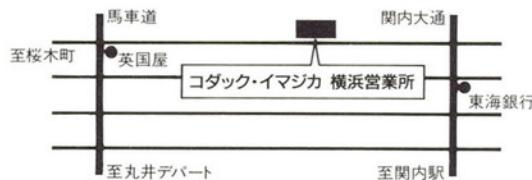
横浜のコダックファンのためのサービスステーションです。

受付窓口は、JR関内駅から歩いて5分。

エクタクロームもプロの品質基準をクリアしたQラボ仕上げです。

良い仕上りでさらに速く…を実現。ぜひご利用ください。

■営業時間／月～金曜日…9:00～19:00／土曜日…9:00～17:00
※第2・4土曜日定休



コダック・イマジカ株式会社
コマーシャル営業部 横浜営業所

〒231 横浜市中区太田町4-47 コーワ太田町ビル1F
TEL.045-664-1077



Kodak Lab

カラーフィルム・カラープリントは、コダックで…。



お近くのカメラ店で、コダックラボ神奈川をご指定ください。

■神奈川エリアをネットワーク――

コダックラボ神奈川株式会社

本社営業本部：横浜市西区北幸2-9-40 銀洋ビル 〒220 TEL.045-322-8741代

横浜営業所：横浜市神奈川区入江2-19-4 〒221 TEL.045-435-0571代

湘南営業所：藤沢市鵠沼石上2-11-14 クラフトビル 〒251 TEL.0466-28-5344代

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品ユーナー

■文具館 横浜・馬車道 TEL.(045)662-1231

■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 5F TEL.(0466)26-1411

■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811

■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

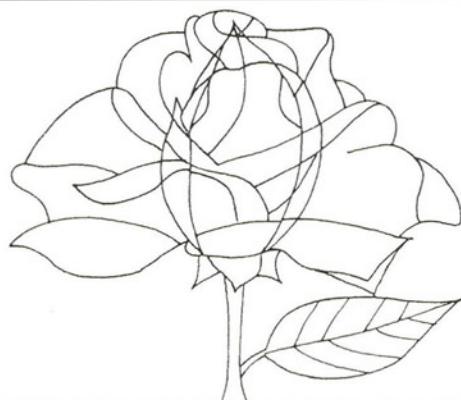
※ルミネ店は書道用品・日本画材のみ取扱っております。

横浜馬車道 有隣堂ギャラリー (有隣堂文具館 7F)

《個展・グループ展》申込承り中 地下鉄関内駅馬車道口下車1分・JR関内駅北口下車3分
※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝課ギャラリー係 ☎(045)825-5505

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といいたしく篤志家の御寄付をお願いしております。

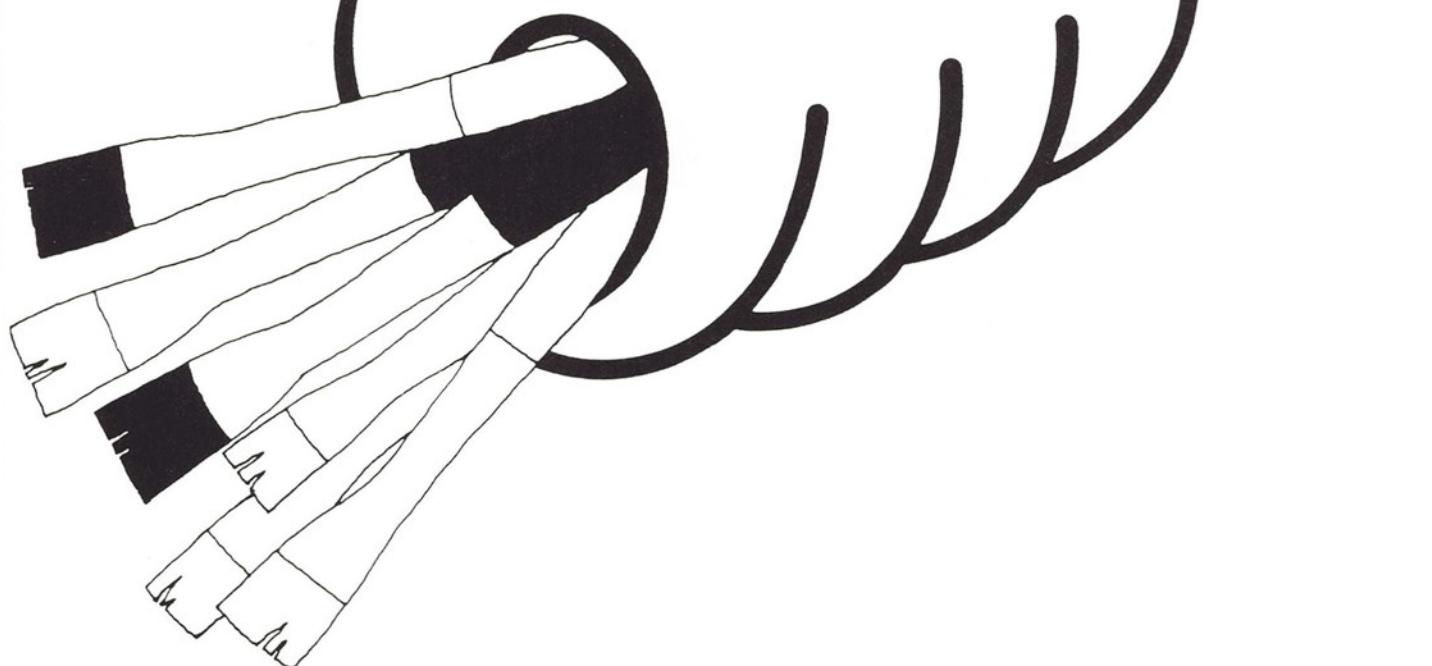
皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

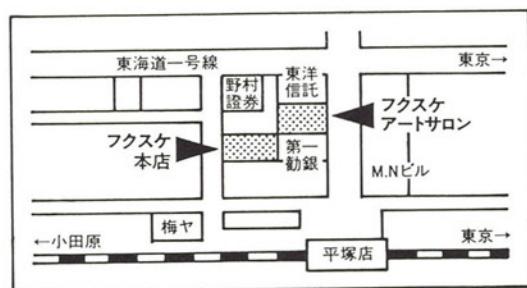
横浜店 横浜ステーションビル・シャル 4 F TEL 045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗



湘南の文化を
支えて20年。

- 企画展
 - 貸画廊
- 御相談下さい。



油絵・日本画・掛軸・扁額・工芸美術品・置物・アクセサリー・画材



フクスケ

企 画
貸 画 廊

本 店：平塚市紅谷町2-9
画 材 部：(ホルベイン画材特約店) 本店3F
アートサロン店：平塚市紅谷町2-18
平 塚 西 店：(平塚ダイクマ店)

☎0463(21)2303

☎0463(21)0250

☎0463(34)6738

うれしい予感があります。
美しい予感があります。



カワサキ・アゼリア
Azalea

●営業時間ご案内:AM10:00~PM8:00 レストラン、喫茶は AM11:00~PM10:00 ●

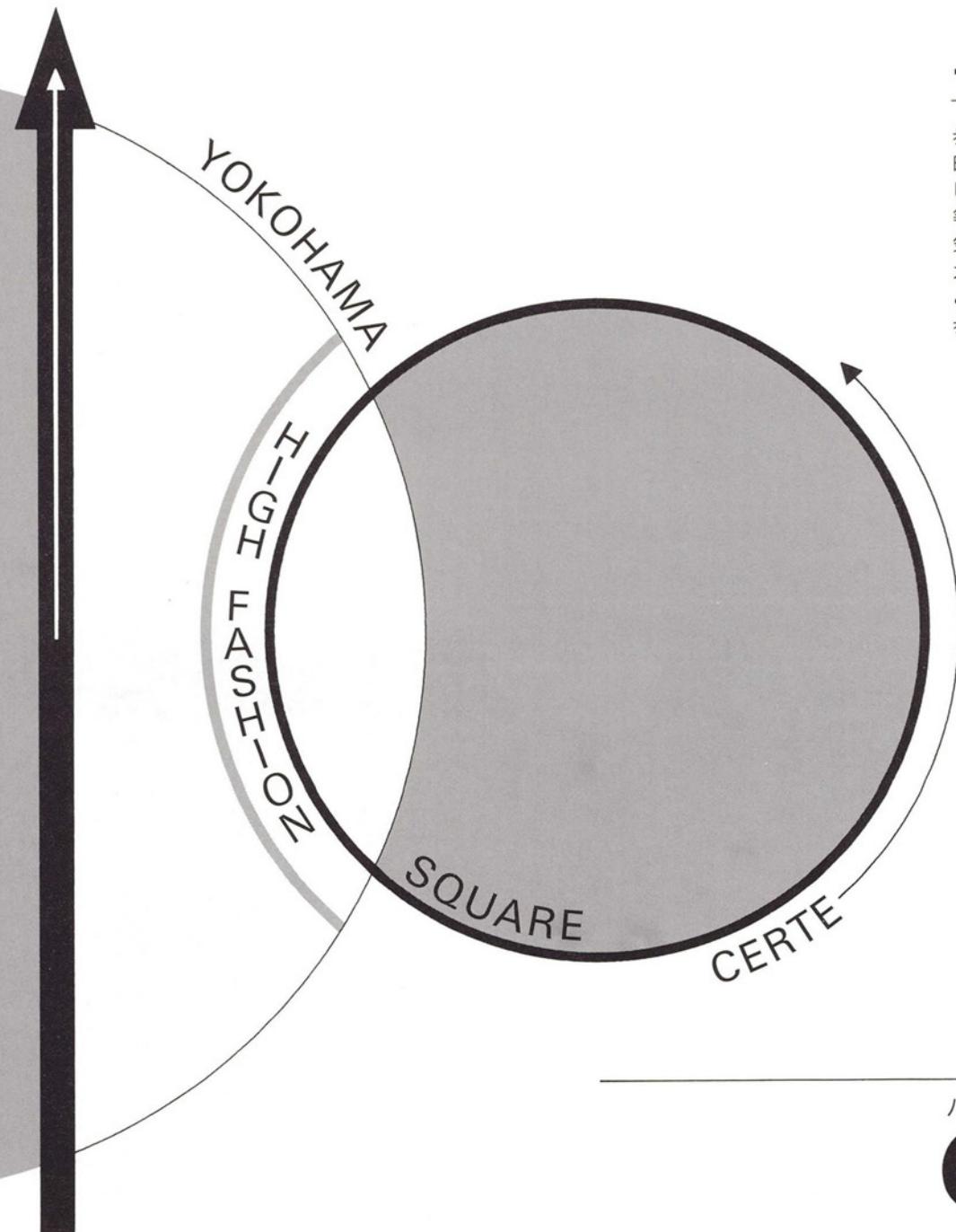
●一部のファーストフード、喫茶は AM8:00~PM10:00 ●

●駐車場:380台収容(年中無休) ●

〒210 川崎市川崎区駅前本町26番地2 TEL.044(211)3871(大代表)

上を向いて

歩きませんか、とりあえず。
時代のマジックにだまされず、
しっかりと大人でいきましょうよ。
等身大のファッショントを楽しみ、
気持ちのいい食事を味わう。
カルチャーでもっと自分を磨いてみる。
どうです。大人思考で、
歩きませんか、関内“セルテ”でも——。



ハイファッション スクエア セルテ

CERTE

〒231 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄・関内駅前)
TEL 045-651-1431 代

通産大臣賞 中小企業庁長官賞 東京通産局長賞等々受賞



情報をカタチにします。

私たちはさまざまな表現を使って情報をカタチにし、
確かな手応えのある
コミュニケーションツールの創造に努めます。

株式会社

野毛印刷

本 社／横浜市中区相生町5-79 〒231 ☎(045)681-0861㈹ FAX.(045)664-5901
営業本部・工場／横浜市南区新川町1-2 〒232 ☎(045)252-2511㈹ FAX.(045)252-8826
東京営業所／東京都港区浜松町1-2-17 〒105 ☎(03)5401-1231㈹ FAX.(03)5401-1230

たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY “INSPIRATION”

The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィーナス展・VENUS DE MILO

ツタンカーメン展・TUTANKHAMEN

伦勃朗名作展・EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES

大阪万博美術展・EXPO '70 ART EXH.

ゴヤ展・GOYA EXH.

モナ・リザ展・MONA LISA EXH.

東大寺展・EXH. OF TODAIJI TEMPLE

江戸大美術展・THE GREAT JAPAN EXH.

将軍の時代展・THE SHOGUN AGE EXH.

インド古代彫刻展・ANCIENT SCULPTURES OF INDIA

比叡山と天台の美術展・THE ART OF TENDAI BUDDHISM

ロダン展・AUGUSTE RODIN EXH.

黄河文明展・EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER

薬師寺展・EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE

日タイ修好100周年展・EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND

世界現代ガラス展・WORLD GLASS NOW EXH

神々のかたち—仮面と神像・THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS

シーボルトと日本・VON SIEBOLD AND JAPAN

大エジプト展・THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT

17世紀オランダ絵画展・HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH

柿右衛門展・KAKIEMON STYLE WARE EXH.

スミソニアン・アメリカの大発明展・SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY

鎌倉彫刻展・UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)

ミレー展・MILLET EXH.

大英博物館展・THE BRITISH MUSEUM EXH.

中国兵馬俑展・CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.

トプカプ宮殿秘蔵展・THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION : OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE

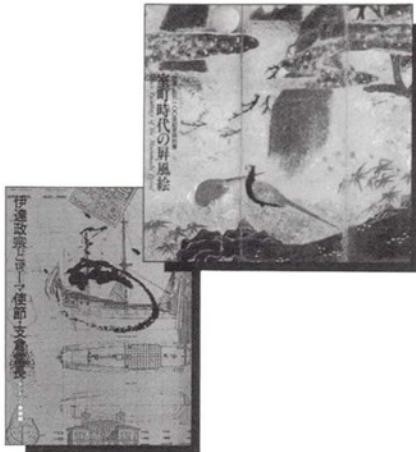
日本国宝展・NATIONAL TREASURES OF JAPAN

ローマの支倉常長展・HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME

ユーロパリア展・EUROPAEDIA EXH.

ヴァチカン展・MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN

三井寺秘宝展・ART TREASURES OF MII-DERA TEMPLE



「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海・陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北支店 ☎045-521-2222

発行・神奈川県美術展委員会

事務局：神奈川県民部文化室

表紙デザイン・伊東寿太郎

撮影・菊屋写真工房

本文デザイン・株式会社エイ・シー・ピー

制作・株式会社野毛印刷社

